AGU 青山学院大学 NEWS No.37

AGUニューズ第37号
[2007年6月～7月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代表）
URL. http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

相模原キャンパス

特集 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

新しい青学へ！ 新学部・新学科の誕生

青山から世界へ、文化を発信する―総合文化政策学部―
論理的思考力で社会や組織の問題にアプローチ―社会情報学部―
「公共」と「地域」をキーワードに―現代経済デザイン学科―

AGU TOPIC

文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」活動報告

渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成
e-Learning専門家の人材育成

TOPICS
2007年度一般入学試験・センター利用入学試験結果
2007年度新役職員紹介
2007年度新任専任教員紹介

報告・お知らせ
2006年度学生表彰
2006年度体育会表彰

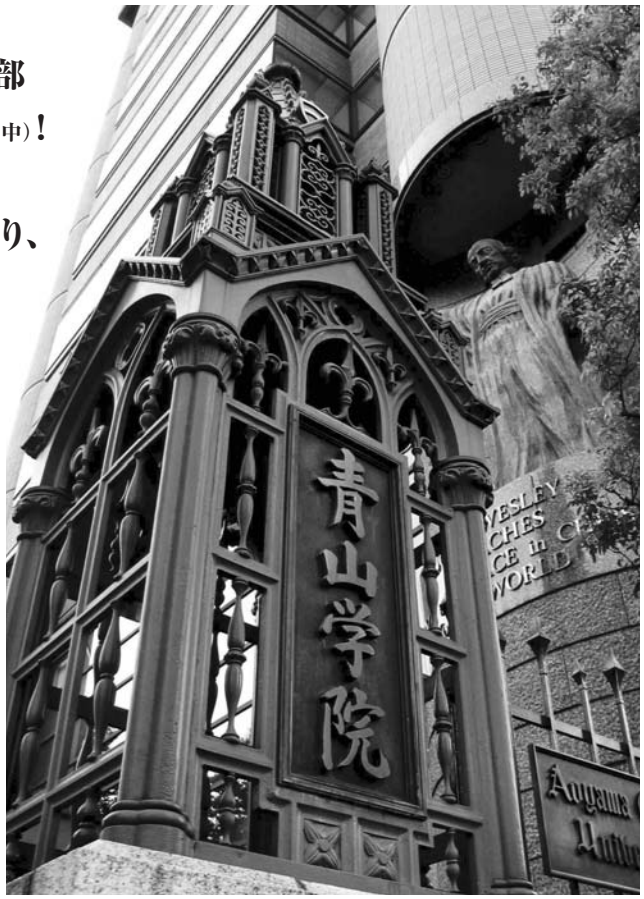
誌上公開講座
青山スタンダード
フレッシャーズセミナー

INFORMATION
2007年度進学相談会開催日程
2007年度オープンキャンパス

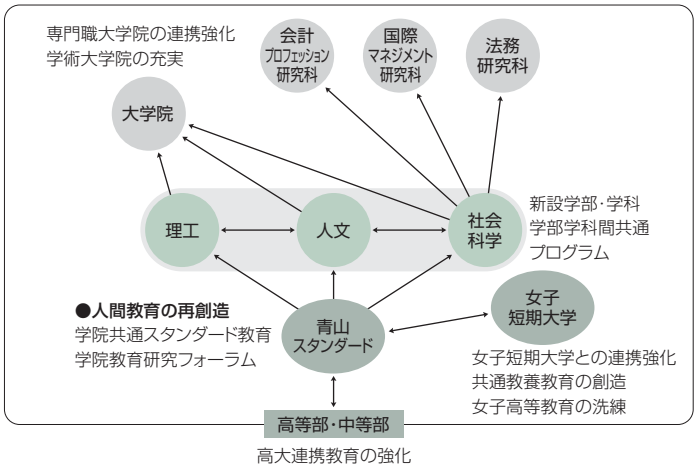
特集

新しい青学へ!
新学部・新学科の誕生

2008年4月、
国際政治経済学部以来25年ぶりとなる2つの新学部
「総合文化政策学部」「社会情報学部」を設置(届出中)!
さらに経済学部には
新学科「現代経済デザイン学科」の開設(届出中)により、
21世紀の青山学院大学の
新しい姿が見えてきました。



青山学院大学のフォーメーション



2008年度 学部学科構成

文学部	教育学科　英米文学科　フランス文学科　日本文学科　史学科　心理学科
経済学部	経済学科　現代経済デザイン学科(届出中)
法学部	法学科
経営学部	経営学科
国際政治経済学部	国際政治学科　国際経済学科　国際コミュニケーション学科
総合文化政策学部(届出中)	総合文化政策学科
社会情報学部(届出中)	社会情報学科
理工学部	物理・数理学科　化学・生命科学科　電気電子工学科　機械創造工学科　経営システム工学科　情報テクノロジー学科
第二部(夜間部)	第二部教育学科　第二部英米文学科

青山学院大学学長

武藤 元昭

青山学院大学は、近年、積極的に大学改革を進めてまいりました。2003年には文理融合型の相模原キャンパスを開学し、教養教育を抜本的に改革し、全学共通の教養教育システム「青山スタンダード」を確立。2001年以降には、3つの専門職大学院（ビジネススクール、ロースクール、アカウティングスクール）設置、さらに学科改組や新設など、複雑化・多様化する社会のニーズに応え、キリスト教信仰を土台とする本学として「何をすべきか」という課題と真摯に向き合い、さまざまな改革を実行してまいりました。

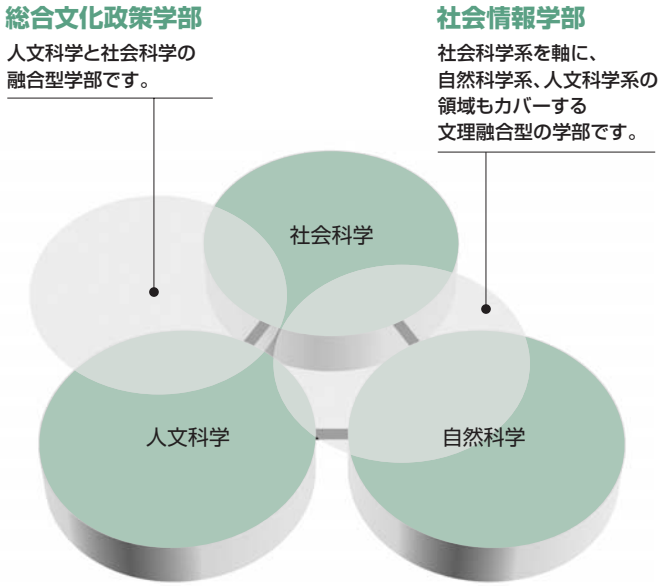
その大きな節目となるのが、21世紀の青山学院大学のあるべき姿を示す新学部設置です。私自身、この新学部設置を学長任期中の重要なミッションととらえてきました。そしてこのたび、多くの先生方と関係者の方々のご協力を得て、2008年4月に「総合文化政策学部」「社会情報学部」（いずれも届出中）という2つの新学部設置、また経済学部に新学科「現代経済デザイン学科」（届出中）を開設いたします。いずれも本学の伝統と特色をベースにしながらも、これまでの大学にはない新しいコンセプトを打ち出した“青山学院大学だからこそ”実現できるユニークな学部・学科です。なお、長年、働きながら学ぶ学生に教育の機会を提供してきた経済学部第二部・経営学部第二部（夜間部）は、新学部・新学科の開設と同時に募集停止（予定）となります。

総合文化政策学部は、最先端の文化芸術情報の発信地である渋谷・青山地区に立地する本学の特色を最大限に生かした「人文社会科学融合型学部」です。文化創造・発信を支える政策科学を基礎として、自由な発想を出発点とした「あらゆる文化のシンフォニー」を奏でる教育・研究の場といえるでしょう。

社会情報学部は、文系学部でありながら数理的能力を重視。論理的思考能力を養う「文理融合型」の学部です。経済問題や社会問題をはじめ、現代社会の複雑化した課題を解決するために必要とされる数理的なスキルを土台に「情報」を通じた望ましい人間社会のあり方をデザインできる人材の育成を目指し、現代社会の多様な課題に取り組むことができる人材育成を行います。

2007年3月28日 新学部設置および新学科開設 記者会見

2新設学部の学問的位置づけ



経済学部に新設される現代経済デザイン学科は、「公共」と「地域」をキーワードとし、環境、地域再生、NPO/NGO、教育、福祉、介護、地方自治、CSRなどの現代的テーマを扱う学科です。教育・研究にあたっては、本学が社会科学系学部としてわが国で初めて本格的に導入したGIS（地理情報システム）の活用が大きな特色となります。

従来の学問分野の枠組みを超えた時代が求める新しい知見を養うこれらの新学部・新学科は、既存の学部・学科にも大きな刺激を与え、本学全体の教育研究の活性化をリードする存在となることでしょう。もちろん、本学の建学の理念であるキリスト教信仰に立脚した人間教育にも力を入れていきます。ともすれば利己主義が跋扈する現代社会に、社会から信用される「謙虚で潔い人間」を輩出していくことが、キリスト教主義を標榜する本学の使命であるからです。今後、青山学院の「アカデミックグランドデザイン」に基く高等部と大学の連携、相模原キャンパスでの附属中高一貫校の設立などを視野に入れつつ、青山学院大学は21世紀という時代の中で輝く大学であり続けるためのさまざまな挑戦を行い、国際性、社会性、人間性を兼ね備えた人材育成を図っていきたいと考えております。どうかご期待ください。

青山から世界へ 文化を発信する

特集

総合文化政策学部は、最先端の文化・芸術・情報の発信地にキャンパスを有する青山学院大学のメリットを生かした斬新な教育・研究を展開し、「あらゆる文化のシンフォニー」を奏でるこれまでになかったタイプの学部です。

将来構想・第二部担当　副学長
経済学部教授
杉浦 勢之

――総合文化政策学部のコンセプトと概略を教えてください。

杉浦　一言で言えば、最先端の文化芸術情報の発信地である渋谷・青山地区に立地する本学の特色を最大限に生かした「人文社会科学融合型学部」です。

自由な発想を出発点に、これまでにない新しい教育・研究領域を切りひらいていくことを目指すとともに、以下の人材育成を目標としています。

- **文化の創造と世界への発信をプロデュースする人材**
- **21世紀の文化社会、メディアのデザインに従事する人材**
- **文化、芸術についての深い造詣を有し、都市文化、国際文化交流に貢献する人材**
- **クリエイティビティをもって企業活動に従事する人材**

もともと本学には文化・芸術に対する感受性が優れた学生が多かったわけですが、新学部ではそうした学生の可能性をこれまで以上に掘り起こし、開花させていきたいと考えています。

――カリキュラムはどのようになっているのですか?

杉浦　文化の創造・発信を支える政策科学を基礎として、多様な文化理解に関わる科目を開講しています。マネジメント、マーケティング、国際文化政策、社会調査、建築・都市計画、環境デザイン、映像文化、音楽文化、表象文化、伝統芸能……ともすれば科目のバラエティだけに目が向きがちですが、あらゆる文化事象と実社会を結び、総合化する力を培う普遍性の獲得を重視し、カリキュラムの基礎に政策科学を置いていることが大きな特色です。青山キャンパスで学ぶようになる2年次以降は学生が自らの関心や目標に応じて学べるようモデル履修コースを設定しています。また、4年間を通じて文化についての柔軟な視点を養っていくために、文化創造入門から始まる学部共通科目を開講し、学生自らが主体的に自分の生き方を“デザイン”し、切りひらいていくための柔軟性にあふれる実践的で総合的な教育環境を提供していきます。なお、新学部の教育には、研究者教員だけではなく、建築、ファッション、メディア、アート、環境デザインなど多彩なジャンルの著名クリエイターやアーティスト、実務家の方々にご協力いただくほか、キャンパスを飛び出して文化の創造・発信の現場で学ぶ新しいタイプのインターンシップ「青山コミュニティ・ラボ」(ACL)も予定されています。「理論」「実践」「政策」「マネジメント」をバランスよく学ぶことができる教育によって、単なる教養ではなく、学生自らが主体的に自分の生き方をデザインできるような教育環境を提供していきます。

――「青山コミュニティ・ラボ」についてもう少し詳しく教えてください。

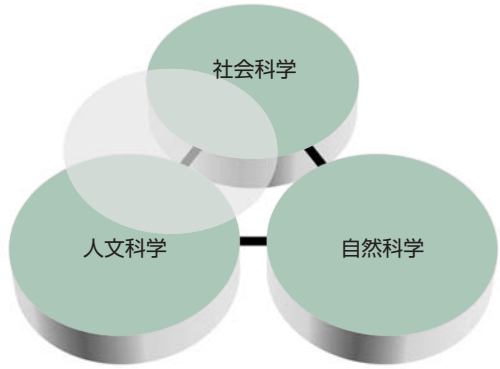
杉浦　渋谷・青山地区は世界有数のクリエイティブな街です。ここで起きていること、ここで創られたものは、たとえばファッション、アート、建築などの分野で世界に大きな影響を及ぼしています。「青山コミュニティ・ラボ」はそうしたクリエイターの方々の創造の現場に学生を送り込み、創造の喜びと厳しさを現場の“知”として学んでもらおうという試みです。現場の“知”から学ぶのは、教員も同様です。多くの教員がACLを通じて現場での“プロジェクト”を主体とした研究活動を展開し、それを学生の教育にフィードバックしていくことになります。

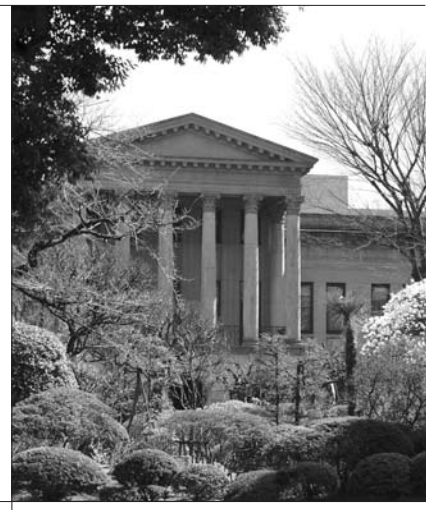
――新学部では、どのような学生を想定していますか?

杉浦　クリエイティブな文化や芸術は、私たちをワクワクさせ、生きる力を与えてくれます。そんな文化・芸術をデザインし、プロデュースし、世の中に発信していく人材を育成するわけですから、好奇心旺盛で、世の中のさまざま

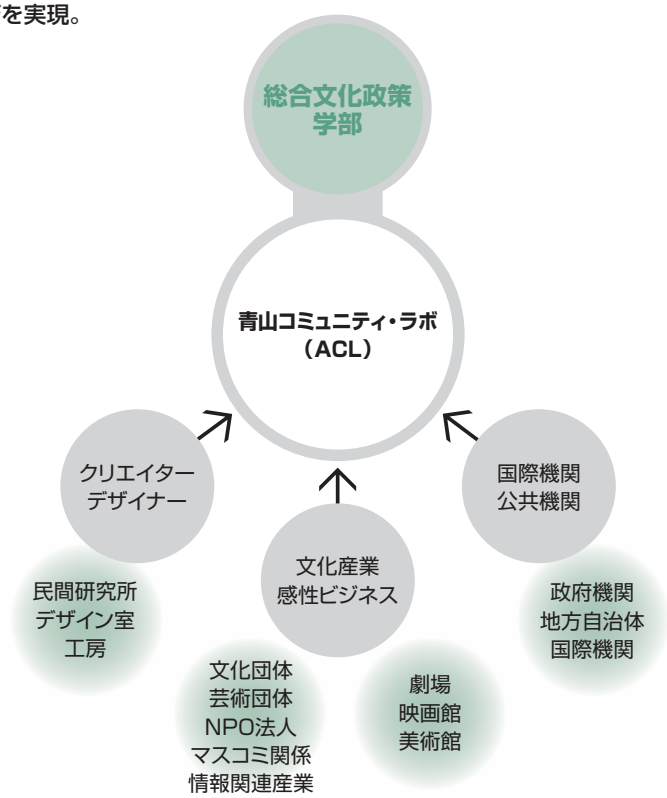
総合文化政策学部(届出中)

総合文化政策学部は、人文科学と社会科学の融合型学部です。





総合文化政策学部の教育研究プロジェクト機関
「青山コミュニティ・ラボ(ACL)」を拠点に学外施設とネットワークを築き、
実践的な学びを実現。



なことに対して厳しさを含め「面白がれる」才能を持った学生に入学してほしいですね。学部の教員スタッフにも、そのような先生方を揃えたと自負しています。「自分が世界を変えていく」——そんな意気込みを感じさせる学生と是非この学部で出会いたいと思っています。なお、学部新設と同時に大学院「総合文化政策学研究科」(計画中)も新設される予定です。

学部名称

総合文化政策学部

(School of Culture & Creative Study)

学科名称

総合文化政策学科

(Department of Culture & Creative Study)

授与学位

学士(総合文化政策学)

就学キャンパス

1年次／相模原キャンパス

2〜4年次／青山キャンパス

モデル履修コース

メディア文化コース(仮称)

都市・国際文化コース(仮称)

アートマネジメントコース(仮称)

大学院

総合文化政策学研究科(計画中)

専門教員数

18名(予定)

主な進路先

放送・通信・出版従事者、キュレーター、非営利組織・文化団体職員・研究員、文化産業の企画・開発者、国際機関職員、国家公務員、地方公務員、文化教育行政関係者等

(上記内容は、2007年3月現在の計画中のもので、変更される場合があります。)

論理的思考力で社会や組織の問題にアプローチ

特集

社会情報学部は、文系学部でありながら数理的能力を重視し、緻密な論理的思考力を養う「文理融合型」の学部です。経済・社会問題や組織のコミュニケーションなどにアプローチします。

総務担当　副学長
理工学部教授
魚住 清彦

――社会情報学部のコンセプトと概略を教えてください。

魚住　2003年に相模原キャンパスが開学して以来、私たちは文理融合型の新学部の構想を議論し、進めてきました。設置する社会情報学部は、理工学部と同じく4年間を相模原キャンパスで学ぶ「文理融合学部」です。新学部では、さまざまな社会問題や組織・コミュニケーションの問題を扱いますが、数理的能力を身につけ、緻密な論理的思考力を養うことを大きな柱に掲げています。簡単に言えば、情報、数理、コミュニケーション等をキーワードに、21世紀の「読み、書き、ソロバン」を志向する学部といえるでしょう。

――なぜ、「論理的思考力」なのですか?

魚住　経済問題や社会問題をはじめ、現代社会の複雑化した課題の解決のためには、基本的な統計処理能力といった数理的能力が必要不可欠であり、現実に政策立案や経済活動も数理＝統計がベースになっています。今やいわゆる文系の人材にも統計やデータ処理などの局面でベーシックな数理的素養にもとづく論理的思考力が求められているのです。

――どのような人材育成を目指しているのですか?

魚住　「情報」を通じた望ましい人間社会のあり方をデザインできる人材の育成を大きな柱として、次のような人材育成を想定しています。

- **数理的な知識の上に、情報への理論的なアプローチを通じ、人間・社会に貢献できるシステムの開発に貢献できる人材**
- **学習・心理・組織科学の知識の上に、情報の実践的アプローチを通じ、企業や組織における望ましいコミュニケーションのあり方を構築し、知の共有・伝達システムを設計する知識創造に貢献できる人材**
- **経済、経営など社会科学に関する基本的な知識の上に、現代社会が直面する諸課題（環境問題、少子高齢化、健康・福祉問題、医療制度など）における問題発見・解決のためのシステム設計を行い、情報・コミュニケーションを基盤とした望ましい社会の構築に貢献できる人材**

教育にあたっては、実務経験者を含む多彩な教員スタッフのもと、原理・理論を踏まえながら、たとえばファイナンス分野、環境・エネルギー問題、少子・高齢化を含む人口問題といった現代社会のさまざまな課題と取り組むことができる教育システム・体制を整えていきます。なお、「数学」「情報」の教員免許状の取得が可能になる予定です。

――カリキュラムはどのようになるのですか?

魚住　数学・統計（数理）、情報技術、コミュニケーション、外国語という4タイプの科目を基礎・基盤科目として、2年次以降はモデル履修コースに沿って、数理系、理論情報系、情報活用系、組織科学系、心理学・学習科学系、社会科学系、言語情報・外国語系にわたる多彩な科目群の中から、学生各自の関心や将来の目標に応じて学びます。

――英語教育も重視されるのですか?

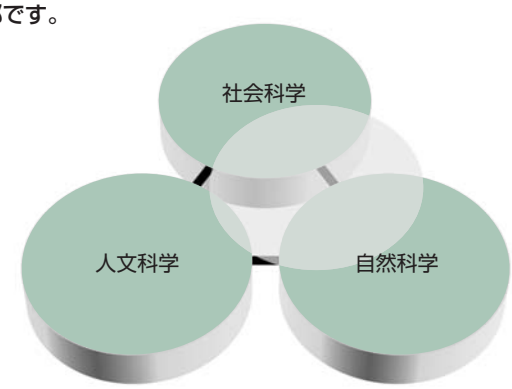
魚住　グローバルな情報伝達・コミュニケーションに、今や英語は欠かせません。新学部ではTOEFLのスコアアップを目標に、実際のプレゼンテーションやコミュニケーションに役立つ「使える英語」を身につける教育プログラムを用意する予定です。相模原キャンパスで「英語の青山」の新しい伝統を創りたいと思っています。

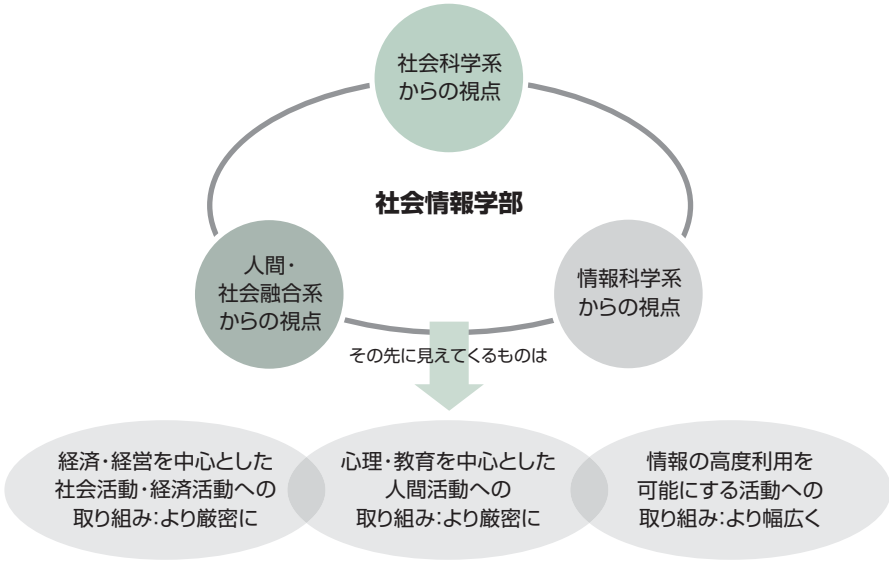
――入試では「数学」を必須とするのですか?

魚住　新学部での学びや研究には、高校で

社会情報学部(届出中)

社会情報学部は、社会科学系を軸に、自然科学系、人文科学系の領域もカバーする文理融合型の学部です。





社会が抱える多様な問題の解決に不可欠な、4つの力を確実に養成。

学習する数学Ⅰ、Ⅱの基礎が必要となりますので、数学を必須としたいというのが基本的な考え方です。しかし、社会系の勉強に重点を置いて勉強された方も受験できるように、社会系の科目と数学Ⅰ、Ⅱを選択することが出来る受験方式も用意いたします。入試に課す数学は基礎力を試すことが目的ですので、高校の教科書をしっかり勉強していれば解答できるレベルの出題となるでしょう。また、入学後も専門教育に必要な数学力の補習などを行う予定です。

学部名称

社会情報学部

(School of Social Informatics)

学科名称

社会情報学科

(Department of Social Informatics)

授与学位

学士(学術)

就学キャンパス

1~4年次/相模原キャンパス

展開に合わせたモデル履修コースを設定

社会科学系からの展開コース

人間・社会融合系からの展開コース

情報科学系からの展開コース

大学院

社会情報学研究科(計画中)

専門教員数

19名(予定)

主な進路先

システムアナリスト、システムエンジニア、ジャーナリスト、公務員、情報・通信・商業・製造業・サービス業・金融保険業、教育関連、メディア関連、ネットワーク関連、大学院等

(上記内容は、2007年3月現在の計画中のもので、変更される場合があります。)

「公共」と「地域」をキーワードに よりよい社会経済を デザインできる人材を育てます。

経済学部 現代経済デザイン学科（届出中）

特集 **新しい青学へ！新学部・新学科の誕生**

経済学部長
教授
平澤 典男

「現代経済デザイン学科」は、現代社会の将来、地域社会から国際社会まで、地域に貢献できるコミュニティーリーダーとして活躍できる人材育成を行っていきます。

経済学の重要な研究対象は「市場（マーケット）」です。本来、市場経済は自由な競争によって社会の活力を生み出しますが、格差拡大等の要因によって現代社会を覆う不平等感や閉塞感、あるいは深刻な環境破壊などは「市場の失敗」が招いた事態です。こうした市場経済が生み出す諸問題は、公正を旨とする国や自治体といった「政府」がさまざまな公的サービスによって解決するはずなのですが、必ずしも上手く改善が図られているとは言えません。これは「政府の失敗」です。そのため、現在、NPO（非営利組織）・NGO（非政府組織）といった地域コミュニティに根ざした組織の活動が重要性を増しています。

新学科ではこうした「市場の失敗」「政府の失敗」を理解し、第3の視点「地域・コミュニティ」を取り入れることによって、今、大きく変わりつつある私たちの社会や経済をよりよいものにしていくための仕組み（制度、政策など）を設計（デザイン）していくための方策を追究します。そのため、「公共」と「地域」をキーワードとして現代社会が抱える多様な課題の解決を図るための教育プログラムを用意し、環境、地域再生、NPO/NGO、CSR（企業の社会的責任）、教育、福祉、介護、地方自治などの現代的テーマにアプローチ。2年次後半からは「公共コース」「地域コース」を選択し、制度設計、政策立案、交渉・契約等に特化した教育・研究を展開します。また、問題解決のための空間分析のツールとして、本学経済学部が経済系学部としてわが国で初めて本格的に導入したGIS（地理情報システム）を活用し、これがカリキュラムの大きな特色となっています。

なお、学科開設と同時に大学院経済学研究科に「公共・地域専攻」も新設し、学部のカリキュラムと連動した高度な教育・研究を行っていく予定です。

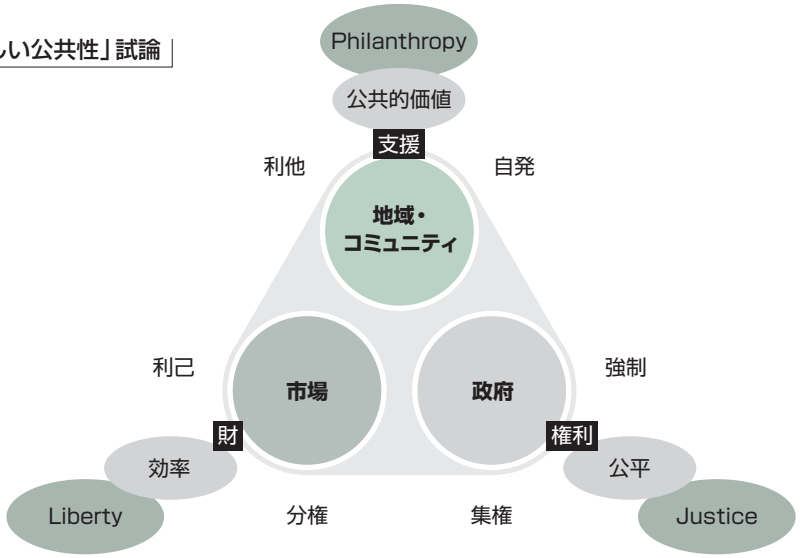
学科名称
現代経済デザイン学科

就学キャンパス
1～2年次／相模原キャンパス
3～4年次／青山キャンパス

履修コース　2年次後期からコース選択
公共コース　　地域コース

セメスター制（半期制の導入）
専門的知識を早い時期から効率的に学べるよう、セメスター制（半期制）を導入。第4セメスター（2年次後期）から、2コースに分かれて学びます。
上記内容は、2007年3月現在の計画中のもので、変更される場合があります。

「新しい公共性」試論



文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」活動報告

渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成 ―本学の理念に基づく地域貢献の実践と社学連携体制の拡充―

社学連携研究センター所長
経営学部教授
井口 典夫

「渋谷・原宿・青山」
――本学がリードする最先端のまちづくり

渋谷・原宿・青山地区は、わが国有数の魅力溢れるエリアです。政府の推進する「観光立国」「美しい国づくり」といった政策や、オリンピック招致を視野に入れたまちづくりにおいても、渋谷・原宿・青山地区への期待には非常に大きなものがあります。

こうしたエリアの中心に位置する本学は、現代GPの取組の中で、地域と協働しつつ数多くのプロジェクトを提案してきました。「青山通り修景事業計画」「原宿キャットストリート再生計画」「渋谷駅東地区再開発計画」などの大規模な都市再生事業やまちづくりへの取組は、いずれも本学の協力のもとに進められています。また、ゼミなど通常の学部教育プログラムとも連動させ、学生側が望めば、いつどのような形でも現場で学べるような仕組みにしてあります。

ここで過去2年間の活動を、青山通り修景事業計画を例にご説明しましょう。

現代GPがスタートした2005年度には、プロジェクトの実現に向けて計画的に取組むため、地域団体の役員、企業経営者、専門家など多くの方々のご協力のもと、まず「NPO渋谷・青山景観整備機構（SALF）」を設立しました。青山通り修景事業計画の場合、魅力ある街並みの形成に資する全体プランと個別デザインの考案などにおいて、SALFメンバーの世界的な建築家やクリエイター、本学が協働して国に働きかけ、ハード面のプラン・デザインを固めました。結果として、シンプルながらも斬新な「青山モダニズム」というべきテイストによる素晴らしいプラン・デザインになったと思います。

続く2006年度には、学内資源の発掘・連携機能と、社会との関わりを求める教員・学生への窓口機能をも担う「青山学院大学社学連携研究センター（SACRE）」を設置。SALFとSACREでは、上記のハード面のプラン・デザインが実現される時期を見越しつつ、新しくなった施設の活用に関するルールやタウンマネジメントのスキーム（『青山通り街並み協定書』、2006年7月地元合意）を提案するなど、ソフト面での対応策やその合意形成に努めています。ちなみに本プロジェクトに参加した学生からは、沿道の地域・企業と交流・協働するだけでなく、超一流のクリエイターらと接した感動体験が、その後の学習意欲や進路選択に結びついたとの報告を受けています。

社会との接点に将来の本学の姿を見る――新学部とACL構想

今後の1年間、すなわち2007年度は、SACREの地域社会への窓口機能を本格的に整備するとともに、これまで蓄積したノウハウを生かしつつ、渋谷西口（公園通り）や原宿駅、神宮外苑、赤坂、六本木、麻布、広尾など、より広いエリアのまちづくりに参画していきます。また、学生のまちづくりへの参加に関しても、さらに規模を拡大させていく予定です。

一方、『21世紀の青山学院』においても、実績をあげていかなければなりません。その最良の機会となるのが、2008年4月の新学部（総合文化政策学部と社会情報学部）の設置（予定）です。両学部とも社会に開かれており、特に総合文化政策学部に用意される予定の「青山コミュニティ・ラボ（ACL）」は、地域の文化人・クリエイター、文化施設、研究施設、国際機関等との連携、協働作業を想定して考案されたものです。次の機会には、この素晴らしいACLへの取組をご紹介したいと思います。

本学の社学連携活動を本格的にスタートしてからまだ2年ですが、相互の交流はますます深まっており、こうした活動の延長上に新しい青山学院の姿も見えてきました。今後も引続き、SACREを中心に取組を展開していきます。どうぞご期待ください。

※本学のまちづくりへの取組については、『成熟都市のクリエイティブなまちづくり』（井口典夫編著、青山学院大学総合研究所叢書、宣伝会議、2007年3月）、もしくは社学連携研究センター（SACRE）のウェブサイト（http://www.renkei.aoyama.ac.jp/）をご参照ください。

e-Learning専門家の人材育成 ―世界に通用する専門家育成プログラムの開発と普及―

eラーニング人材育成研究センター
センター長
経営学部教授
玉木 欽也

わが国における本格的な「eラーニング人材育成」の先駆けとしてスタート

教員が「教える授業」から、学生が「主体的に学ぶ授業」へ……eラーニングは、わが国の大学教育の「質」保証のためにも有効な手段であり、学習方法や教材開発などのe-ラーニング専門家の育成は急務といえるでしょう。しかし、欧米の先進国はもちろん、韓国、シンガポール、タイなどの諸国と比較しても、わが国はeラーニング専門家の人材育成の分野で大きく遅れをとっています。そのため、「eラーニング人材育成研究センター（eLPCO）」の前身となる経済産業省のプロジェクト「Aoyama & Asia e-Learning Network（A2EN）」では、日本とアジア各国の高等教育機関におけるe-ラーニング専門家のニーズについての実態調査を実施しました。これらの結果と本学におけるe-ラーニング実践をベースに、eLPCOは2005年にeラーニング授業開発・運用スキルの全範囲（分析・設計・開発・実施・評価）をカバーする5職種の専門家育成プログラムを開発。2006年4月、学部3・4年生・大学院生における正規の教育課程として「eラーニング専門家育成プログラム」をスタートさせました。正規科目として受講する場合は、従来の対面学習とeラーニングを組み合わせた“ブレンディッド・ラーニング”によって学び、eラーニング授業に関しては育成する5職種の内の一つである「メンタ」が学習サポートを行っています。そして職種ごとに定められた科目を受講し、最終試験に合格すれば、各職種の認定証を発行しています。現在、eラーニング専門家育成は、熊本大学大学院でも実施していますが、これは大学院生十数名を対象にした小規模なもので、学部生を中心とした多人数の育成プログラムは、今のところ本学のみが実施しています。

産学連携の促進を通して「eラーニング専門家」を広くアピール

初年度となる2006年は前・後期あわせて181名が受講しました。「自分の好きな時間に好きな分だけ勉強できる」「対面授業でないからといって苦労することはなかった」「一人きりではなく、誰かが見てくれているという感覚が、安心感とやる気につながった」など、受講者からは概ね好評でした。

今後は、各学部と連携しながら、より受講しやすいプログラムにしていきたいと考えています。同時に受講者数を増やしていくために、eラーニング専門家の価値の周知も図っていく予定です。わが国ではeラーニング専門家育成自体が始まったばかりですから、eラーニング専門家に対する社会のニーズがイメージできない学生もまだ多いようです。初年度の受講者は文学部の学生が半数を占めていましたが、実は学校教育現場だけではなく、企業の人材育成部門などでもeラーニング専門家は強く求められています。そこでeLPCOではeラーニング専門家を待望する企業の方々と学生の交流組織である「eLPCO産学連携コミュニティ」を発足させ、2ヶ月に一度、「交流イベント」を開催。eラーニング専門家の社会的ニーズを把握し、就職課と連携して就職活動における有用な情報を得る場として機能させていきたいと考えています。

さらに、他大学の教職員や社会人対象の「公開講座」やeラーニング関係者の交流の場となる「eLPCOオープンフォーラム」も開催。大学、企業、官公庁など国内外のeラーニング関係者から注目を集めています。

今後の展開としては、以下を計画しています。

＊「現代GP」後もeラーニング専門家育成プログラムを持続的に運営していくための組織体制・経営基盤の確立
＊ より高度な上級者向けeラーニング専門家育成プログラムの研究・開発
＊ 特定非営利活動法人日本eラーニングコンソーシアム（eLC）等との相互認定により、eラーニング資格認定の制度化

なお、eラーニング資格認定の制度化については、すでにeLCとの間でベーシック資格の相互認定が可能となっています。今後は、プロフェッショナル資格の相互認定を含めたより包括的な提携に向けて邁進していく予定です。

※本取組の詳細に関しては「eLPCOウェブサイト（http://elpco.a2en.aoyama.ac.jp/）をご参照ください。

2007年度一般入学試験 大学入試センター試験利用入学試験結果

大学間競争が激しさを増した2007年度入試。2007年度入試の志願状況は「私高国低」と言われ、国公立大学志願者が減少したことがポイントとしてあげられます。その大きな要因は、大学入試センター試験の平均点が大幅低下し、特に多くの受験生が受験する『国語』、『数学Ⅰ・数学A』で平均点がダウンするなど、各科目で軒並み下がったためとみられています。その結果、難関国立大学の受験を断念し、地方国公立大学や全学部入試、地方試験会場の設置、新学部・学科設置など積極的改革を実施している大都市圏の難関私立大学に志願者が流れる結果となりました。そのような状況のなかで、本学では心理学科でコース制（昼間主・夜間主）を廃止した他、国際コミュニケーション学科で新しく大学入試センター試験利用入学試験を実施したものの、一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、45,550名となり、昨年度の志願者総数と比べ、2,279名の志願者減となりました。

《一般入学試験》

2007年度一般入学試験における志願者数は、昼間部が34,209名（昨年度－55名）、第二部（夜間部）が2,335名（昨年度－89名）、合計36,544名（昨年度－144名）となり、ほぼ前年並みの結果となりました。2003年度入試から一般入学試験の志願者数は、4年連続で減少しています。文学部は昨年の大幅減少の反動で増加し、理工学部は近年の減少傾向から増加に転じたものの、経営学部、国際政治経済学部では志願者が大きく減少しました。特に、文学部史学科は5年連続、文学部教育学科、国際政治経済学部国際政治学科は4年連続の志願者減となっています。

《大学入試センター試験利用入学試験》

大学入試センター試験利用入学試験では、導入2年目の経営学部3教科型で昨年度の高倍率が敬遠され大幅に減少し、新規利用の4教科型も振るわず、学部全体で1,059名減少しました。また、国際政治経済学部は、国際政治・国際経済の3教科型が昨年の高倍率が敬遠され大幅減少となった他、国際経済の2教科型、国際コミュニケーション学科の3教科型の新規利用も振るわず、学部全体で1,331名減少しました。理工学部では過去最高の志願者数となったものの、社会科学系学部では全学部減少となりました。

◆◆◆

2008年度は、経済学部第二部経済学科と経営学部第二部経営学科において学生募集を停止し、新しく総合文化政策学部、社会情報学部を設置する他、経済学部に現代経済デザイン学科を開設することが予定されています。また、文学部フランス文学科と史学科では、新規に大学入試センター試験利用入学試験を、国際政治経済学部で志望学科の順位を決めて出願する「学科同時エントリー方式」を、法学部、理工学部では一般入学試験と大学入試センター試験の教科・科目を組み合わせた併用入学試験「センタープラス方式」を実施します。さらに、法学部、経営学部、国際政治経済学部、理工学部で大学入試センター試験利用入学試験「後期日程」を新設するなど、全学部において大規模な入試改革を行います。広報入試センターでは、2007年度入学試験結果と2008年度入学試験の詳細を大学紹介パンフレット「進学案内」に掲載し、6月より全国の受験生に頒布いたします。

広報入試センター『進学情報コーナー』に行ってみよう!

青山キャンパスの総合研究所ビル1階　広報入試センター内に、大学への進学に関するさまざまな情報を受験生のみなさんに提供する『進学情報コーナー』が設けられています。進学に関する質問はもちろんのこと、青山学院大学のさまざまな資料を閲覧したり、大学紹介ビデオなどを鑑賞することができますのでお気軽にご利用ください。開室時間は、平日9時～17時、土曜日9時～13時です（夏期休業期間等は開室日・時間が変更になることがあります）。グループ、学校単位での利用希望の場合は、予め広報入試センター広報課へお問い合わせください。

お問い合わせ先
TEL.03-3409-8626

2007年度入学試験結果

一般入学試験

学部・学科・方式		募集人員	志願者	合格者	倍率
文学部	教育A	約75	1,604	※268	5.6
	教育B	約10	354	26	13.0
	教育　合計	約85	1,958	294	6.3
	英米文A	約190	1,856	405	4.3
	英米文B	約50	816	110	6.8
	英米文　合計	約240	2,672	515	4.8
	フランス文A	約75	1,018	235	4.1
	フランス文B	約10	117	25	4.0
	フランス文　合計	約85	1,135	260	4.1
	日本文A	約85	1,247	263	4.4
	日本文B	約10	214	25	7.9
	日本文　合計	約95	1,461	288	4.7
	史	約80	898	275	3.0
	心理	約75	1,028	218	4.5
	合計	約660	9,152	1,850	4.6
経済学部	経済A	約260	5,487	684	7.1
	経済B	約80	1,873	223	7.3
	経済C	約20	166	26	5.5
	合計	約360	7,526	933	7.1
法学部法学科		約320	3,480	884	3.5
経営学部	経営A	約220	5,566	700	7.5
	経営B	約30	289	77	3.4
	経営C	約50	949	214	4.2
	合計	約300	6,804	991	6.5
国際政治経済学部	国際政治A	約50	1,040	※183	4.8
	国際政治B	約5	108	14	6.2
	国際政治　合計	約55	1,148	197	4.9
	国際経済	約35	484	78	5.5
	国際コミュニケーションA	約22	816	※122	5.8
	国際コミュニケーションB	約13	219	24	7.8
	国際コミュニケーション　合計	約35	1,035	146	6.2
	合計	約125	2,667	421	5.5
理工学部	物理・数理	約60	820	※339	2.3
	化学・生命科	約60	990	※316	3.0
	電気電子工	約55	629	※255	2.3
	機械創造工	約50	846	※272	3.0
	経営システム工	約50	630	※224	2.6
	情報テクノロジー	約40	665	※210	3.1
	合計	約315	4,580	1,616	2.7
昼間部総計		約2,080	34,209	6,695	4.7
文学部第二部	教育	約50	353	95	3.1
	英米文A	約40	194	71	2.3
	英米文B	約20	92	38	2.0
	英米文　合計	約60	286	109	2.2
	合計	約110	639	204	2.6
経済学部第二部経済		約170	1,173	330	2.9
経営学部第二部経営		約120	523	237	1.9
第二部（夜間部）総計		約400	2,335	771	2.5
昼間部・第二部総合計		約2,480	36,544	7,466	4.5

倍率=受験者／合格者　合格者に※印がある場合、補欠を含みます。

大学入試センター試験利用入学試験

学部・学科			募集人員	志願者	合格者	倍率
経済学部経済学科			20	542	110	4.9
法学部法学科			30	754	162	4.7
経営学部経営学科		3教科型	30	1,419	49	29.0
		4教科型	20	326	25	13.0
		合計	50	1,745	74	23.6
国際政治経済学部	国際政治学科	3教科型	17	933	129	7.2
		4教科型	5	279	50	5.6
		合計	22	1,212	179	6.8
	国際経済学科	2教科型	10	513	56	9.2
		3教科型	10	664	113	5.9
		4教科型	23	700	213	3.3
		合計	43	1,877	382	4.9
	国際コミュニケーション学科		5	621	47	13.2
	合計		70	3,710	608	6.1
理工学部	物理・数理学科		5	552	144	3.8
	化学・生命科学科		5	447	51	8.8
	電気電子工学科		5	445	100	4.5
	機械創造工学科		5	310	75	4.1
	経営システム工学科		5	266	80	3.3
	情報テクノロジー学科		10	235	67	3.5
	合計		35	2,255	517	4.4
総合計			205	9,006	1,471	6.1

倍率=志願者／合格者

出身高校別昼間部合格者数ランキング BEST 100

順位	(昨年度順位)	高校名 (◎は私立高等学校)	合格者数
1	(1)	◎桐蔭学園(神奈川)	129
2	(2)	◎山手学院(神奈川)	62
3	(3)	◎桐光学園(神奈川)	59
4	(4)	希望ケ丘(神奈川)	48
5	(10)	◎國學院大學久我山(東京)	46
6	(33)	八王子東(東京)	43
7	(7)	◎頌栄女子学院(東京)	42
7	(24)	相模原(県立)(神奈川)	42
7	(34)	◎市川(千葉)	42
10	(24)	◎洗足学園(神奈川)	41
11	(14)	柏陽(神奈川)	40
12	(17)	厚木(神奈川)	35
12	(7)	横浜緑ケ丘(神奈川)	35
14	(41)	横浜翠嵐(神奈川)	33
15	(5)	湘南(神奈川)	32
15	(48)	茅ケ崎北陵(神奈川)	32
17	(17)	平塚江南(神奈川)	31
18	(87)	大和(神奈川)	30
19	(34)	立川(東京)	29
19	(21)	◎帝京大学(東京)	29
19	(24)	◎神奈川大学附属(神奈川)	29
22	(9)	青山(東京)	28
22	(29)	◎日本大学第三(東京)	28
22	(58)	金沢(神奈川)	28
22	(14)	川和(神奈川)	28
26	(48)	三鷹(東京)	27
26	(63)	◎共立女子(東京)	27
26	(10)	横須賀(県立)(神奈川)	27
26	(13)	◎鎌倉女学院(神奈川)	27
26	(58)	◎横浜共立学園(神奈川)	27
31	(21)	南多摩(東京)	26
31	(67)	◎吉祥女子(東京)	26
31	(58)	◎錦城(東京)	26
31	(34)	◎東京女学館(東京)	26
31	(23)	◎鎌倉学園(神奈川)	26
36	(41)	◎専修大学松戸(千葉)	25
36	(29)	小山台(東京)	25
36	(78)	◎日本大学藤沢(神奈川)	25
39	(—)	水戸第一(茨城)	24
39	(17)	小田原(神奈川)	24
41	(71)	宇都宮女子(栃木)	23
41	(34)	国立(東京)	23
41	(41)	国分寺(東京)	23
41	(67)	◎大妻多摩(東京)	23
41	(24)	◎國學院(東京)	23
41	(—)	◎八王子(東京)	23
47	(78)	戸山(東京)	22
47	(87)	◎攻玉社(東京)	22
47	(71)	横浜平沼(神奈川)	22
47	(48)	◎横浜雙葉(神奈川)	22
51	(71)	駒場(東京)	21
51	(10)	町田(東京)	21
51	(87)	◎品川女子学院高等部(東京)	21
51	(—)	◎成蹊(東京)	21
51	(—)	◎山脇学園(東京)	21
51	(—)	市ケ尾(神奈川)	21
51	(—)	追浜(神奈川)	21
51	(54)	港南台(神奈川)	21
51	(29)	◎逗子開成(神奈川)	21
51	(—)	浜松北(静岡)	21
61	(—)	竹早(東京)	20
61	(34)	鎌倉(神奈川)	20
61	(48)	相模大野(神奈川)	20
61	(—)	横須賀大津(神奈川)	20
65	(—)	春日部(埼玉)	19
65	(14)	◎西武学園文理(埼玉)	19
65	(6)	光陵(神奈川)	19
65	(—)	◎桐蔭学園中教(神奈川)	19
65	(—)	長野(長野)	19
70	(—)	◎成城(東京)	18
70	(78)	多摩(神奈川)	18
70	(—)	◎公文国際学園高等部(神奈川)	18
70	(87)	◎フェリス女学院(神奈川)	18
70	(—)	◎横浜(神奈川)	18
75	(78)	大宮(埼玉)	17
75	(—)	長生(千葉)	17
75	(—)	船橋(県立)(千葉)	17
75	(48)	◎桜美林(東京)	17
75	(—)	◎鴎友学園女子(東京)	17
75	(34)	◎世田谷学園(東京)	17
75	(87)	◎浅野(神奈川)	17
75	(87)	◎清泉女学院(神奈川)	17
83	(—)	土浦第一(茨城)	16
83	(58)	浦和(市立)(埼玉)	16
83	(—)	所沢北(埼玉)	16
83	(71)	◎開智(埼玉)	16
83	(—)	千葉(市立)(千葉)	16
83	(63)	富士(東京)	16
83	(—)	◎国際基督教大学(東京)	16
83	(—)	◎芝(東京)	16
83	(—)	◎青稜(東京)	16
83	(—)	◎桐朋(東京)	16
83	(17)	外語短期大学付属(神奈川)	16
83	(58)	秦野(神奈川)	16
83	(—)	韮山(静岡)	16
96	(—)	竹園(茨城)	15
96	(71)	◎川越東(埼玉)	15
96	(63)	◎淑徳与野(埼玉)	15
96	(87)	◎星野(埼玉)	15
96	(—)	調布北(東京)	15
96	(—)	◎関東国際(東京)	15
96	(54)	◎豊島岡女子学園(東京)	15
96	(—)	◎日本大学第二(東京)	15
96	(—)	鶴見(神奈川)	15
96	(—)	◎森村学園高等部(神奈川)	15
96	(—)	◎横須賀学院(神奈川)	15
96	(—)	長岡(新潟)	15
96	(—)	静岡東(静岡)	15

※合格者数は一般入学試験の数字です。
※補欠合格を含みます。
※昨年度100位以下の高等学校については昨年度順位を(—)としています。
※着色された校名は、昨年度のランキングBEST100以内かつ合格者が5名以上増えたことを表しています。
※高等学校名は2006年度のものです。
※同一順位内では、高等学校等コード番号順に掲載しています。

出身高校別昼間部合格率ランキング BEST 50

順位	(昨年度順位)	高校名 (◎は私立高等学校)	合格者数	受験者数	合格率(%)
1	(21)	◎フェリス女学院(神奈川)	18	31	58.1
2	(25)	国立(東京)	23	40	57.5
3	(49)	◎吉祥女子(東京)	26	46	56.5
4	(—)	水戸第一(茨城)	24	46	52.2
5	(28)	八王子東(東京)	43	85	50.6
6	(—)	浜松北(静岡)	21	42	50.0
7	(5)	◎頌栄女子学院(東京)	42	85	49.4
8	(—)	船橋(県立)(千葉)	17	35	48.6
9	(—)	静岡東(静岡)	15	31	48.4
10	(30)	◎横浜共立学園(神奈川)	27	56	48.2
11	(3)	宇都宮女子(栃木)	23	48	47.9
12	(47)	◎横浜雙葉(神奈川)	22	46	47.8
13	(—)	韮山(静岡)	16	34	47.1
14	(—)	◎桐蔭学園中教(神奈川)	19	41	46.3
15	(35)	大宮(埼玉)	17	37	45.9
16	(64)	◎日本大学第三(東京)	28	62	45.2
17	(—)	◎国際基督教大学(東京)	16	36	44.4
17	(24)	湘南(神奈川)	32	72	44.4
17	(48)	柏陽(神奈川)	40	90	44.4
20	(—)	竹園(茨城)	15	34	44.1
20	(7)	◎豊島岡女子学園(東京)	15	34	44.1
22	(57)	◎帝京大学(東京)	29	66	43.9
23	(38)	立川(東京)	29	68	42.6
24	(16)	小山台(東京)	25	59	42.4
24	(40)	相模原(県立)(神奈川)	42	99	42.4
26	(61)	◎横浜翠嵐(神奈川)	33	79	41.8
27	(—)	長岡(新潟)	15	36	41.7
28	(—)	◎成蹊(東京)	21	51	41.2
28	(68)	◎逗子開成(神奈川)	21	51	41.2
30	(87)	大和(神奈川)	30	74	40.5
31	(—)	土浦第一(茨城)	16	40	40.0
32	(—)	◎芝(東京)	16	42	38.1
32	(4)	◎外語短期大学付属(神奈川)	16	42	38.1
34	(—)	長野(長野)	19	50	38.0
35	(65)	戸山(東京)	22	58	37.9
36	(—)	竹早(東京)	20	53	37.7
37	(17)	浦和(市立)(埼玉)	16	43	37.2
38	(12)	◎大妻多摩(東京)	23	62	37.1
39	(51)	◎洗足学園(神奈川)	41	111	36.9
40	(14)	青山(東京)	28	76	36.8
41	(—)	◎公文国際学園高等部(神奈川)	18	49	36.7
42	(20)	厚木(神奈川)	35	96	36.5
43	(—)	春日部(埼玉)	19	53	35.8
44	(36)	◎國學院大學久我山(東京)	46	130	35.4
45	(26)	平塚江南(神奈川)	31	88	35.2
46	(15)	◎鎌倉女学院(神奈川)	27	77	35.1
47	(—)	所沢北(埼玉)	16	46	34.8
47	(57)	希望ケ丘(神奈川)	48	138	34.8
49	(37)	◎清泉女学院(神奈川)	17	50	34.0
50	(84)	横浜平沼(神奈川)	22	65	33.8

※合格者数は一般入学試験の数字です。
※補欠合格を含みます。　※合格率＝合格者／受験者
※昨年度50位以下の高等学校については昨年度順位を(—)と表しています。
※合格率は小数点第2位を四捨五入して表記しています。同率の場合は、小数点第2位で比較の上、順位付けを行っています。
※このランキングは、左表の100校を対象にしています。
※着色された校名は、昨年度のBEST50以内かつ合格率が10%以上増えたことを表しています。
※高等学校名は2006年度のものです。

2007年度新役職員紹介

経営学部長・経営学研究科長　岩田 伸人
岩田 伸人教授は2007年3月末日をもって田中 隆雄元教授の残存期間を満了、引き続き同氏が選任された。大学院経営学研究科長を兼務。任期は2007年4月1日より2年間。早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学(国際貿易論専攻)。博士(農学)。WTO研究センター所長、経営学部第二部経営学科主任を歴任。

国際マネジメント研究科長　髙橋 文郎

伊藤　文雄教授は2007年3月末日をもって任期を満了、後任には髙橋　文郎教授が選任された。任期は2007年4月1日より2年間。ペンシルベニア大学ウォートンスクール経営学修士課程修了。MBA。国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教務主任を歴任。

会計プロフェッション研究科長　青木 茂男

鈴木　豊教授は2007年3月末日をもって任期を満了、後任には青木 茂男教授が選任された。任期は2007年4月1日より2年間。中央大学大学院商学研究科修士課程修了。博士(会計学)。会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻教務主任を歴任。

学院宗教部長　嶋田 順好

東方 敬信教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、後任に国際政治経済学部　嶋田　順好教授が選任された。任期は2007年4月1日より2年間。

大学宗教部長　大島 力

東方 敬信教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、後任に経済学部 大島　力教授が選任された。任期は2007年4月1日より2年間。

就職部長　仁科 貞文
仁科　貞文教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2007年4月1日より2年間。

情報科学研究センター所長　魚住 清彦
魚住　清彦教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2007年4月1日より2年間。

学生相談センター所長　西澤 宗英
西澤　宗英教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2007年4月1日より2年間。

保健管理センター所長　五味 愼太郎
五味　愼太郎教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2007年4月1日より2年間。

総合研究所長　秋元 実治
秋元　実治教授は2007年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2007年4月1日より2年間。

学院総局長　岸 實

宗像　知機前学院総局長は2007年3月8日付で定年退職のため、後任に2007年3月9日付で岸 實氏が就任した。

大学事務局長　中嶋 泰

岸　實前大学事務局長は2007年3月9日付で青山学院総局長に就任のため、後任に同日付で中嶋　泰氏が就任した。

2007年度新任専任教員紹介

2007年4月1日付就任者の所属、氏名、身分、専門分野を掲載しています。

文学部
一川 大輔　助教
コーチ学(陸上競技)

文学部
北村 哲　助教
コーチング学(テニス方法論)

文学部
副島 秀治　助教
サッカーコーチ学

文学部
髙畠 瑠依　助教
運動学(陸上競技)

文学部教育学科
藏元 幸二　特任教授
社会科教育法、教員養成

文学部教育学科
長嶋 清　特任教授
算数化教育

文学部教育学科
有川 雅裕　助手
美術

文学部教育学科
佐々木 竜太　助手
日本教育史

文学部史学科
和田 伸哉　助手
日本考古学

文学部心理学科
稲本 絵里　助教
臨床心理学、トラウマ心理学

文学部心理学科
西村 洋一　助教
社会心理学

経済学部経済学科
松本 茂　准教授
経済学

経済学部経済学科
後藤 智弘　助手
理論経済学、計量経済学

経済学部経済学科
山元 京子　助手
開発経済学、地域経済学

法学部法学科
チェン・ポール　教授
比較法、法制史

法学部法学科
手塚 和彰　教授
法学(社会法:労働法、社会保障法)

法学部法学科
大沢 光　准教授
行政法

法学部法学科
赤間 聡　助教
法哲学

法学部法学科
楊 林凱　助教
商法(会社法、証券取引法、商事信託)

経営学部
塩澤 友規　教授
産業労働衛生学、医療情報学

経営学部
髙砂 民宣 准教授
ヨハネによる福音

経営学部経営学科
吉田 猛 教授
マネジメント

経営学部経営学科
高松 朋史 准教授
経営管理

国際政治経済学部国際政治学科
納家 政嗣 教授
国際政治学

国際政治経済学部国際政治学科
羽場 久美子 教授
国際政治

国際政治経済学部国際経済学科
竹田 憲史 専任講師
国際金融、中小企業金融

理工学部物理・数理学科
髙野 恭一 教授
微分方程式

理工学部物理・数理学科
北野 晴久 准教授
物性実験

理工学部物理・数理学科
御領 潤 助教
理論物理学（特に凝縮系物理学理論）

理工学部物理・数理学科
榊 直人 助教
宇宙線物理学

理工学部物理・数理学科
村中 隆弘 助教
固体物理学（超伝導、物性）

理工学部物理・数理学科
山岡 和貴 助教
X線天文学、高エネルギー物理学

理工学部物理・数理学科
村田 実貴生 助手
可積分系

理工学部化学・生命科学科
有井 康博 助教
生命科学、化学、タンパク質科学、タンパク質工学、構造生物学

理工学部化学・生命科学科
熊谷 賢一 助教
物理化学

理工学部化学・生命科学科
佐藤 泰史 助教
セラミックス、薄膜工学、無機合成化学

理工学部化学・生命科学科
大極 光太 助教
計算化学

理工学部化学・生命科学科
渡辺 貴志 助教
分子遺伝学

理工学部化学・生命科学科
根岸 隆之 助手
神経科学

理工学部化学・生命科学科
前原 幸枝 助手
天然物理学

理工学部電気電子工学科
安藤 豊 助教
薄膜・材料物性

理工学部電気電子工学科
浅野 裕俊 助手
マルチエージェントシステム

理工学部電気電子工学科
松本 好太 助手
環境電磁工学、マイクロ波応用

理工学部電気電子工学科
水崎 壮一郎 助手
固体物理学

理工学部電気電子工学科
三瀬 貴寛 助手
半導体光デバイス、半導体材料物性評価・合成

理工学部機械創造工学科
長 秀雄 准教授
レーザー超音波、非破壊検査工学、音波物性工学

理工学部機械創造工学科
米山 聡 准教授
材料力学、実験力学

理工学部機械創造工学科
坂上 賢一 助教
材料力学、破壊力学、光計測

理工学部機械創造工学科
藤松 信義 助教
空気力学、数値流体力学、画像処理、乱流

理工学部機械創造工学科
菅原 佳城 助手
振動工学、制御工学

理工学部機械創造工学科
山田 英助 助手
燃焼、流体力学

理工学部経営システム工学科
志田 敬介 助教
IE、生産管理

理工学部経営システム工学科
永井 義満 助教
信頼性理論、応用統計学

理工学部情報テクノロジー学科
伊藤 一成 助教
メディア情報処理、自然言語処理

理工学部情報テクノロジー学科
森屋 健太郎 助教
数値計算、ハイパフォーマンスコンピューティング

理工学部情報テクノロジー学科
矢吹 太朗 助教
情報科学（進化計算）

情報科学研究センター
増永 良文 教授
情報科学（特にデータベース）

情報科学研究センター
寺尾 敦 助教
認知科学

国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻
前田 昇 教授
国際ビジネス、アントレプレナーシップ

国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻
森田 充 助教
計量経済学

国際マネジメント研究科国際マネジメントサイエンス専攻
MAYHEW,G.E. 教授
マーケティング（消費者生涯価値、価格設定、販促戦略）

国際マネジメント研究科国際マネジメントサイエンス専攻
中野 勉 教授
組織論、経営戦略論、グローバル・マネジメント、社会ネットワーク分析、経済社会学

法務研究科法務専攻
佐伯 一郎 教授
民法

法務研究科法務専攻
宮澤 節生 教授
法社会学

青山学院大学寄附講座「中央三井信託銀行知財信託講座」の開講について

青山学院大学は、三井トラスト・ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、取締役社長：田辺和夫）の傘下銀行である中央三井信託銀行株式会社（以下、中央三井信託銀行）の協力を得て、大学院法学研究科ビジネス法務専攻に、寄附講座「知財信託講座」を設置します。

わが国においては、知的財産という新たな経営資源を適切に運用し、価値創造のサイクルを効果的に具現化することが重要な課題となっています。そこで、青山学院大学と中央三井信託銀行（以下、「両者」という。）は、知的財産権の信託に関するビジネス・モデルを設計し、それをマニュアル化することによって、実務的かつ学術的視座に基づく分析を深め、知財ファイナンスの専門的総合人材の育成に寄与することを目的として、知財信託講座に基づく研究ならびに教育を行います。

本講座では、「知財経営の動向」、「知財ファイナンスの諸制度」、「知的財産の管理・評価」、「知財信託の実務的課題」、「知財信託のビジネス・モデル」など、近年注目を集めているテーマを取り上げて、専門家がオムニバス形式にて教育・研究・実務の相互連携のあり方を提案します。

〈講座概要〉
名称 ：知財信託実務（呼称：知財信託講座）
期間 ：2年間（2007年度から2008年度までの2年間。但し、両者協議により継続することができます）
2007年度は後期（9月下旬～11月上旬）に7回の講義・演習を予定
目的 ：知財信託 のファイナンス・スキームに関する諸課題を検討し、具体的なビジネス・モデルを研究する
特色 ：（1）知的財産権の信託をコアとするビジネス・モデルを設計する
（2）ファイナンス・スキームの比較研究を行う
（3）知財リスクの評価手法に関する事例研究を行う
知財信託実務（呼称：知財信託講座）
対象 ：大学院法学研究科ビジネス法務専攻を始めとする大学院生等
担当教授 ：青山学院大学大学院法学研究科 教授　菊池純一 他
※詳細等については、後日、お知らせします。

先端技術研究開発センター「成果報告会2006」を終えて

理工学部長
稲積 宏誠

青山学院大学理工学部では、まだ世田谷にキャンパスがあった1996年、文部省（現文部科学省）の「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に選定されたことを受け、2年後の1998年に先端技術研究開発センター（CAT/Center for Advanced Technology）を附置しました。

当時の最大の問題は、研究のためのスペースが不足していたことにあり、そのため個々の研究室ごとに細々と研究を進めることで精一杯でした。その後、2003年の相模原キャンパスへの移転もあり、スペースの問題は解決し、さらに「先端技術研究開発センター」に加え、「機器分析センター」をはじめとする最新の機器に恵まれた充実の研究環境が設立。環境が整うと研究室同士のつながりも活発化し、横断的な研究の取り組みも自然発生的にスタートしました。それらの取り組みがあったからこそ、先日まで進行しておりました「21世紀COEプロジェクト」にも比較的スムーズに対応できたと考えられ、あらためてCATの果たした役割の大きさを感じます。

なお、3月3日（土）には、相模原キャンパスのビューラウンジにて、CATの取り組みに対する「成果報告会2006」が開催されました。現在、CATを核としたプロジェクトは、「外部資金で運営する研究」と2期目を迎えた「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業に基づく研究」の2本です。報告会では、どちらのプロジェクトに関しても内外の評価委員から一定以上の高い評価をいただき、「成果報告」としては成功を収めたと言えるのではないでしょうか。それらの各研究プロジェクトの背景には、充実した研究環境があり、もちろんその中心にCATがあったことは言うまでもありません。

今後は、横断的プロジェクトを生み出した特色をより生かした、さらに発展的な研究機関としてCATを成長させたいと考えています。例えば、通常のカリキュラムだけではカバーできない高度な知識を学生が身につける場として、または21世紀COEプロジェクトでも重点課題であった大学院生を大きく育てるための場としてなど、「優れた人材育成の拠点」をテーマとした活用が大前提となっていくでしょう。CATを今後も理工学部の中心的機関として、有効に機能させていくつもりです。

「成果報告会2006」プログラム〈2006.3.3〉

第1部
外部資金で運営する研究プロジェクト

■「電波環境材料の創成と実用化」
プロジェクト代表：橋本 修（電気電子工学科　教授）
■「構造物の環境劣化および劣化割れの検出・診断法の構築」
プロジェクト代表：竹本 幹男（機械創造工学科　教授）
■燃料電池・水素エネルギーシステムに関する基礎と安全利用技術に関する基盤研究」
プロジェクト代表：林 光一（機械創造工学科　教授）
■「モデル動物を用いた脳の機能的発達およびその障害機構の解明」
プロジェクト代表：田代 朋子（化学・生命科学科　教授）

第2部
文部科学省「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」
エネルギー高効率化のための新機能性材料の開発および評価のプロジェクト

■「電力貯蔵・移送材料としての超伝導新素材の開発および評価」
プロジェクト代表：秋光 純（物理・数理学科　教授）
研究分担者：古川 信夫（物理・数理学科　准教授）
■「新しい光電材料の創製と高効率薄膜太陽電池に関する研究」
プロジェクト代表：中田 時夫（電気電子工学科　教授）
■「高効率電子素子用基板および高効率機械部材に用いる高品質・大面積ダイヤモンドの創製と評価」
プロジェクト代表：澤邊 厚仁（電気電子工学科　教授）
研究分担者：竹本 幹男（機械創造工学科　教授）

第3部
プロジェクト講評

■評価委員
（内部評価委員）
武内 亮（化学・生命科学科　教授）※評価委員長
西尾 泉（物理・数理学科　教授）
隆 雅久（機械創造工学科　教授）
稲積 宏誠（情報テクノロジー学科　教授）
水澤 純一（情報テクノロジー学科　教授）
（外部評価委員）
綾部 統夫氏（石川島播磨重工業株式会社　技術開発本部　基盤技術研究所所長）
荒木 純道氏（東京工業大学　大学院理工学研究科　教授）
北岡 良雄氏（国立大学法人大阪大学　大学院基礎工学研究科　教授）
星 陽一氏（東京工芸大学　工学部システム電子情報学科　教授）

第54回応用物理学関係連合講演会報告

2007年3月27日（火）～30日（金）の4日間、相模原キャンパスにおいて第54回応用物理学関係連合講演会が開催されました。主催団体である社団法人応用物理学会は、会員数約23,000名の国内有数の学術団体。会員の60%以上が企業の研究者で、大学関係者は30%未満であることが特徴です。今回は応用物理学会の機関紙「応用物理」創刊75周年の記念大会であり、記念シンポジウムなど特別企画が数多くありました。

本学で応用物理学会が開催されるのは4度目ですが、過去3回はすべて青山キャンパスで開催され、相模原キャンパスでの開催は今回が初めてです。立地や交通の便については青山キャンパスが勝るのですが、最先端のAV設備が数多くの教室に設置され、かつ教室配置が大規模学会運営に適していたことが、相模原キャンパスでの開催を決定した最大の理由です。相模原キャンパスや理工学部を数多くの企業関係者に紹介する絶好の機会でもありました。

応用物理学会は非常に大規模な講演会です。今回は講演件数約4,400件、使用教室数は約50におよび、準備期間は約1年半。会期の2日前には、展示会場（アリーナにおいて学会関連企業による展示会を併設。200社以上参加）、総合受付、大会本部、講演会場などの設営準備がスタートしました。大会運営のお手伝いは、本学学生を中心に、本学卒業生、東工大、東大、東京工科大、北里大、中央大、東京理科大、東京工芸大の100名を超えるアルバイトの方々が活躍し、大会準備・運営ともスムーズに進みました。

会期中は天候にも恵まれ、4日間合計の有料登録者数は9,166名と、本学で開催した大会としては最高の参加者数を記録しました。最後に、本大会運営に絶大な協力をいただいた大学執行部、現地実行委員の皆様、相模原キャンパス事務の皆様、アルバイトの皆様、学会本部講演会企画運営委員会の皆様、学会事務局の皆様に対する感謝の意を表することで報告を終わらせていただきます。

（大会現地実行委員会委員長：理工学部電気電子工学科教授　澤邊 厚仁　記）

「国立美術館キャンパスメンバーズ制度」について

青山学院大学は、2007年4月から独立行政法人国立美術館による「国立美術館キャンパスメンバーズ制度」のメンバー校になりました。この制度は、学校教育における美術館の有効利用を促進し、学生と教職員が美術作品に親しむ機会を豊かにする目的で設置されており、メンバー各校の学生と教職員には、国立美術館各館のコレクションを活用した「常設展」の無料観覧、さまざまなテーマや視点で開催される「企画展」の割引観覧などの特典があります。利用できる国立美術館は、「東京国立近代美術館」「京都国立近代美術館」「国立西洋美術館」「国立国際美術館」「国立新美術館」の5館。ぜひ、ご活用ください。

国際マネジメント研究科主催セミナー
「実践的研究者育成のために ～社会人博士号取得の意義～」開催

2007年2月10日（土）、「国際マネジメント実践的研究者育成プログラム」活動の一環として、セミナー「実践的研究者育成のために～社会人博士号取得の意義～」が青学会館で開催されました。このセミナーは社会人が博士号取得をめざす意義が高まりつつある現在、真正面からこのテーマについて議論し、社会人博士課程へ多くの方の参加を呼びかけることを目的とした、おそらくわが国で初めての試み。5名の講演者・パネリスト全員が社会人として活躍されながら日本の大学院博士課程プログラムで学ばれ、課程博士を取得された方々（下記参照）です。なお、このうち宮川氏と進藤氏は、本学国際マネジメント研究科OB・OGで、基調講演を行った前田氏は、4月より国際マネジメント研究科教授に就任しました。

基調講演とプレゼンテーション、そして全員が参加してのパネル討論を通して、わが国がよりいっそうのグローバル化を進めるために、実践的研究者としての博士号取得者の活躍が大きな要因となることが示唆され、およそ80名の参加者は大きな刺激を受けていたようでした。それぞれの博士号取得までのリアルな体験談も、博士号取得という具体的な目標を考える際、きわめて有益なアドバイスに満ちたものとなりました。

セミナー終了後、会場を移して懇談会も開催され、多数の参加者が5人のプレゼンテーター・パネラーを囲み、打ち解けたムードの中、博士号取得にまつわるさらに踏み込んだ話題に花が咲いていました。

●プレゼンテーター・パネラー
前田 昇氏（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）※基調講演
俊野 雅司氏（大和ファンド・コンサルティング株式会社上席研究員）
高山 与志子氏（ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社取締役）
宮川 正裕氏（中京大学総合政策部教授）
進藤 美希氏（NTTソフトウエア技術センター主任エンジニア）

●司会　北川 哲雄国際マネジメント研究科教授

課外教育プログラムについて

課外教育プログラムは青山学院の教育方針を具現化し、正課では得ることのない知識や教養を体得し、そのことを通して社会の一員としてバランス感覚の整った学生を育成することを目的としています。

2007年度の課外教育プログラムの予定は以下のとおりです。奮ってご参加ください。詳細は、学生部（青山キャンパス）・学生生活グループ（相模原キャンパス）にお問い合わせください。

4月6日（金）〈実施終了〉アルコールパッチテスト
新入生を対象として学生生活が始まるに際し、飲酒に対して自己の体質をよく理解するために実施しました。
場所：相模原キャンパス

5月12日（土）〈実施終了〉交流陶芸教室～新入生・在校生交流企画～
新入生と在校生とが交流できる機会とします。また、後日出来上がった器で交流会を企画しました。　場所：外部施設利用　募集人数：50名程度

6月10日（日）旬野菜の健康家庭料理　［夏企画］
新入生・留学生・在学生を対象とし、新入生が早く学生生活になじめるよう、新入生同士だけではなく、留学生および上級生との交流ができる機会を設定します。
場所：外部施設利用　募集人数：20名程度

6月20日（水）・27日（水）青山キャンパス 上級救急救命法／相模原キャンパス 上級救急救命法
課外活動が本格化する前に、活動中の不慮の事故・事態に対する応急手当て・救命手当て等の他、けがや急病の際に役立つ実習を行います。
場所：青山・相模原両キャンパス　募集人数：各30・50名程度

9月12日（水）～14日（金）手話講習会　［集中講座3日間］
講習会を通して、手話への理解と、聴覚障害学生への支援活動を行います。
場所：相模原キャンパス　募集人数：30名程度（希望者数により上限は考慮する予定）

9月14日（金）ノートテイク企画
講習会を通して、ノートテイクへの理解を深めます。
場所：青山キャンパス　募集人数：10名程度

10月17日（水）青山キャンパス　上級救急救命法
活動中の不慮の事故・事態に対する応急手当て・救命手当て等の他、けがや急病の際に役立つ実習をします。　場所：青山キャンパス　募集人数：30名程度

11月25日（日）旬野菜の健康家庭料理　［秋企画］
食文化を通じ異文化体験の場とし、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。　場所：外部施設利用　募集人数：20名程度

※その他、通年企画として使用済み切手・テレフォンカードの回収を実施し、日本キリスト教海外医療協力会（JOCS　切手）、アジアキリスト教教育基金（ACEF　テレフォンカード）へ宗教センターを通して送付しています。

2006年度 学位授与式 大学院学位授与式

2007年3月24日（土）青山学院記念館において大学学位授与式が挙行され、昼間部3,571名、第二部535名、合計4,106名の卒業生に学士の学位が授与されました。

また、同日ガウチャー記念礼拝堂において大学院学位授与式が挙行され、大学院博士前期課程および修士課程修了生294名に修士の学位、専門職学位課程修了生220名に専門職の学位、さらに博士課程修了生14名、論文博士2名に博士の学位が授与されました。

2006年度 学生表彰

2007年3月23日（金）、青山キャンパス6号館第4会議室において、「2006年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の栄誉となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2006年度は以下の35名が受賞しました。

2006年度学生表彰　受賞者

●第9回公共選択学会「学生の集い」（日本公共選択学会主催）
論文報告において最優秀賞(第1位)
「日本の二大政党化が本格化すると、経済政策にどのような影響をあたえるか」
経済学部 中村まづるゼミナール　3年Mパート
丸山 博史（経済学部 経済学科3年）
松本 一紀（経済学部 経済学科3年）
森 淳子（経済学部 経済学科3年）

●第58回学生広告論文電通賞（（株）電通主催）
「10年後の日本の広告を考える」
百瀬 杏美（文学部 心理学科3年）

●第58回学生広告論文電通賞（（株）電通主催）
「広告の質について考える」
社会心理学研究会（文学部 心理学科3年）

●第8回学生による政策論文（松山市主催）優秀賞
「また来ます」と言ってもらえる観光地への提案～『赤シャツまちづくり調査隊』の結成～
松木 翔（経済学部 経済学科4年）

●M&M2005材料力学カンファレンス
（日本機械学会 材料力学部門・九州支部 合同企画主催）日本機械学会フェロー賞
林 雅仁（理工学研究科理工学専攻博士前期課程修了）

●第15回アコースティック・エミッション総合コンファレンス（（社）日本非破壊検査協会主催）
コンファレンスにおける優秀な講演に対する新進賞
加賀山 浩司（理工学研究科理工学専攻博士前期課程修了）

●第15回アコースティック・エミッション総合コンファレンス（（社）日本非破壊検査協会主催）
コンファレンスにおける優秀な講演に対する新進賞
「AEと腐食電位揺動を用いた2軸応力下における鋭敏化SUS304鋼の塩化物SCCの検出」
米津 明生（理工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了）

●2006 Asia-Pacific Microwave Conference（Insutitute of Electronics,Information and Communication Engineers主催）
論文発表においてAPMC 2006 Prize
「Wave Absorber Based on Reinforced Plastic with Periodic Lattice for Improving ETC Environment」
滝本 真（理工学研究科理工学専攻博士前期課程1年）

●平成18年電気学会全国大会（（社）電気学会主催）優秀論文発表賞
「工業用電子レンジを用いた試料配置変化に対する加熱分布に関する検討」
須賀 良介（理工学研究科理工学専攻博士後期課程3年）

●キャンパスベンチャーグランプリ2006（キャンパスベンチャーグランプリ東京実行委員会主催）
ビジネスプランに対する奨励賞（情報通信部門）
生前予約サイト
白山 達也（経営学部 経営学科4年）

●電気学会電子デバイス研究会（（社）電気学会主催）
平成17年度電気学会C部門優秀論文発表賞
「ミリ波帯における自由空間法を用いた高損失誘電体の異方性テルソン測定と電波吸収体への応用」
酒井 泰二（理工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程修了）

● 日本複合材料学会 2004年度論文賞（日本複合材料学会主催）
「炭化ケイ素繊維／エポキシ複合材料の電気抵抗変化によるひずみモンダリング」
相澤 志文（理工学研究科機械工学専攻博士前期課程修了）

●第3回神奈川産学チャレンジプログラム（（社）神奈川経済同友会主催）
努力賞
「技術系シルバー人材を活用したビジネスモデル立案」
松山 紘子（文学部 英米文学科2年）
土佐 和弘（理工学部 経営システム工学科3年）

●第35回春季全日本大学サーフィン選手権大会（日本学生サーフィン連盟主催）
サーフィンレディスクラス 第1位
鈴木 綾乃（経営学部 経営学科4年）

学年は2006年度現在のものです。

総合研究所 研究成果発表状況

2007年度3月末までに研究活動を終了したプロジェクトから、以下の通り研究成果が刊行されました。

2006年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
課題別	協働型まちづくりの実践的研究―渋谷・青山地区における大学と地域との連携実験―	市販本 『成熟都市のクリエイティブなまちづくり』（宣伝会議）2,000円
キリスト教文化	キリスト教の霊性	翻訳本 『キリスト教のスピリチュアリティその二千年の歴史』 （新教出版社）7,350円
人文科学	ベケットにおける日本、日本におけるベケット	『ベケット巡礼』（三省堂） 2,940円
社会科学	変化する労働と生活の国際比較―国際基準・生産システムと競争力・職業訓練教育・セーフティネット―	『階層化する労働と生活』 （株式会社　日本経済評論社） 5,040円
	企業経営に関するボーン・デジタル情報の利活用に関する研究	市販本 『デジタルコンテンツマネジメント』 （同文舘出版）3,675円
	投資家の相互作用と証券市場のダイナミクス―マルチエージェント・シミュレーションによる複雑系アプローチ―	研究叢書
自然科学	オリジナルDNAマイクロアレイ「シナプトアレイ」を用いた神経変性および神経老化過程の解析	研究叢書
	柔軟な壁面に沿う流体摩擦抵抗低減メカニズムの解明	研究叢書（CD）
eラーニング人材育成研究センター		市販本『eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン』（東京電機大学出版局） 2,520円
		研究叢書 TF21,TF22,TF26,TF41

2007年度 入学式

2007年4月4日（水）、青山学院記念館において大学入学式が挙行され、昼間部3,820名、第二部（夜間部）704名、合計4,524名の新入生が入学しました。また、同日、ガウチャー記念礼拝堂において、大学院入学式が挙行され、582名が入学しました。

2006年度 体育会優秀団体・選手表彰祝賀会

2007年3月8日（木）アイビーホール青学会館において「2006年度体育会優秀団体・選手表彰祝賀会」が開催されました。祝賀会には、深町院長、武藤学長をはじめ、学生部長、体育会長ならびに体育会各部長、表彰団体監督や表彰学生、各部の代表者が出席し、以下の団体・選手が表彰されました。

2006年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2006年度現在。

【最優秀団体】
バレーボール部（女子）　五冠達成 第53回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝
第1回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会
春・秋季関東大学女子一部バレーボールリーグ戦優勝
第25回東日本大学バレーボール選手権大会優勝

【最優秀選手】
秋山 美幸（文4）　バレーボール部（女子）　春・秋季リーグ戦優勝（セッター賞）
第25回東日本大学選手権大会優勝（最優秀選手賞・セッター賞）
全日本学生選抜男女東西対抗戦（最優秀選手賞、セッター賞）
第53回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（最優秀選手賞・セッター賞）他
高市 俊（国4）　硬式野球部 東都大学春季リーグ戦優勝（最高殊勲選手・最優秀投手・ベストナイン）
長谷川 恒平（文4）　レスリング部 第57回文部科学大臣杯全日本学生選手権（G55kg級優勝）
第18回全日本大学グレコローマンスタイル選手権（55kg級優勝）
第32回内閣総理大臣杯全日本大学選手権(55kg級優勝）
世界学生選手権大会（G55kg級3位） 他

【優秀団体】
空手道部　第49回全国空手道選手権大会（男子団体形準優勝、女子団体形優勝）
第49回関東大学空手道選手権大会（女子団体形準優勝）
硬式野球部　第55回全日本大学選手権大会準優勝 東都大学野球春季リーグ戦優勝
バドミントン部（女子）　東日本学生バドミントン選手権大会（準優勝）
レスリング部　全日本大学グレコローマン選手権大会 3位

【優秀選手】
齋藤 太嘉志（法3）　居合道部　第39回東日本学生居合道大会 優勝
円谷 英俊（済4）　硬式野球部　日米大学野球選手権大会・世界大学野球選手権大会代表
横川 史学（営4）　硬式野球部　日米大学野球選手権大会・世界大学野球選手権大会代表
小窪 哲也（済3）　硬式野球部　東都大学秋季リーグ戦準優勝（ベストナイン）
嘉部 恵梨奈（文3）　スキー部　第23回ユニバーシアード冬季競技大会
スキージャンプ（女子）ノーマルヒル3位
河原 由実（済2）　ソフトテニス部（女子）　全日本学生シングルス選手権大会 準優勝
阿部 恵（文3）　卓球部（女子）　世界大学卓球選手権大会（混合ダブルス）準優勝
山﨑 知春（文3）　卓球部（女子）　関東学生秋季リーグ戦 優秀選手賞
牧野 洋介（法2）　軟式野球部　東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦
（最優秀投手・ベストナイン・最多勝利、最多奪三振、ノーヒットノーラン）
東都大学軟式野球連盟秋季リーグ戦
（優秀選手最優秀投手・ベストナイン・最多勝利、最多奪三振）
内田 暁子（営3）　バレーボール部（女子）　春季リーグ戦優勝（猛打賞）
第25回東日本大学選手権大会優勝（猛打賞）
第53回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（猛打賞・MIP賞）　他
川上 佳奈（文3）　バレーボール部（女子）　春・秋季リーグ戦優勝（リベロ賞）
第25回東日本大学選手権大会優勝（リベロ賞）
全日本学生選抜東西対抗戦2006（リベロ賞）
岡田 優介（国4）　バスケットボール部（男子）　関東バスケットボール選手権（優秀選手賞）
ウィリアムジョーンズカップ国際バスケットボール大会（U-24日本代表）
全日本学生バスケットボール選手権大会（優秀選手賞）
李相伯杯争奪日韓バスケットボール競技大会（日本代表）　他
正中 岳城（法4）　バスケットボール部（男子）　関東バスケットボールリーグ戦（優秀選手賞）
ウィリアムジョーンズカップ国際バスケットボール大会（U-24日本代表）
関東実業団・学生バスケットボールオールスター対抗戦（関東学生選抜）
李相伯杯争奪日韓バスケットボール競技大会（日本代表）
荒尾 岳（国2）　バスケットボール部（男子）　関東大学バスケットボール新人戦（優秀選手賞・得点王）
ウィリアムジョーンズカップ国際バスケットボール大会（U-24日本代表）
安保 静奈（済3）　馬術部　全日本学生女子選手権大会準優勝　関東学生馬術女子選手権大会優勝
板倉 史也（済3）　レスリング部　全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会66kg級優勝
全日本学生選手権大会（グレコローマン）66kg級3位
尾曲 伸乃祐（済1）　レスリング部　全日本大学グレコローマン選手権大会84kg級3位
河野 隆太（済1）　レスリング部　JOC杯ジュニアオリンピック（グレコローマン）120kg級3位
全日本大学選手権大会120kg級3位
丸山 明子（営1）　レスリング部　JOC杯ジュニアオリンピック（グレコローマン）63kg級3位
全日本学生選手権大会（グレコローマン）63kg級準優勝

【敢闘団体】
アメリカンフットボール部　2006年度関東大学アメリカンフットボールリーグ戦 二部Bブロック優勝
居合道部　第39回東日本学生居合道大会 3位
サッカー部　JR東日本カップ2006 第80回関東大学サッカーリーグ戦 2部2位1部昇格
準硬式野球部　東都大学準硬式野球春季リーグ戦 2部優勝1部昇格
ソフトテニス部（女子）　平成18年度関東学生秋季リーグ戦 2部優勝1部昇格
チアリーディング部　JAPAN CUP2006チアリーディング選手権大会　規定演技1位
全日本選抜チアリーディング選手権大会規定3位
バスケットボール部（男子）　第58回全日本学生選手権大会（ベスト4）
第55回関東大学バスケットボール選手権大会 3位
ラクロス同好会　第19回関東学生ラクロスリーグ戦　男子2部Bブロック優勝 1部昇格

【敢闘選手】
若林 卓（理4）　居合道部　第39回東日本学生居合道大会 3位
久保 将史（済4）　空手道部　関東学生空手道体重別選手権大会 準優勝
田仲 勝治（済4）　硬式野球部　第55回全日本大学野球選手権大会 敢闘賞
中村 祐人（文2）　サッカー部　JR東日本カップ2006第80回関東大学サッカーリーグ戦　2部得点王　ベストイレブン
薄井 良隆（済3）　スキー部　第80回全日本学生スキー選手権大会（ノルディックコンバインド・他）2部優勝
竹本 昌司（文4）　少林寺拳法部　第40回少林寺拳法全日本学生大会　運用法男子二段の部　優勝
佐藤 遼（文4）　準硬式野球部　東都大学準硬式野球春季リーグ戦 2部最優秀選手賞
今井 理遼（営4）　準硬式野球部　東都大学準硬式野球春季リーグ戦 2部最優秀投手賞
岡積 俊明（済3）　ソフトテニス部（男子）　東都大学シングルス選手権大会準優勝
全日本学生シングルス選手権大会ベスト8
大野木 夏子（営1）　ソフトテニス部（女子）　関東学生選手権大会 ダブルス準優勝
藤井 蓉子（営2）　ソフトテニス部（女子）　関東学生選手権大会 ダブルス準優勝
天野 里美（国2）　バレーボール部（女子）　秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝 MIP賞
千葉 智枝美（済1）　バレーボール部（女子）　秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝 レシーブ賞
熊谷 宜之（文3）　バスケットボール部(男子)　学生選抜バスケットボール競技大会　関東選抜選手
梅田 稔人（営2）　バスケットボール部(男子)　関東大学バスケットボール新人戦優勝　優秀選手賞
小林 高晃（営1）　バスケットボール部(男子)　関東大学バスケットボール新人戦優勝　新人賞
星野 祐八郎（済4）　ボクシング部　関東大学ボクシングトーナメント戦　4部ライトウェルター級（優勝）
東京都選手権大会　ライトウェルター級（3位）
古矢 真志（国4）　陸上競技部　関東学生陸上競技対抗選手権大会男子二部800m、1500m　優勝
岡﨑 隼也（国2）　陸上競技部　関東学生陸上競技対抗選手権大会男子二部800m、1500m　準優勝
米澤 豪（法2）　陸上競技部　東京箱根間往復大学駅伝競走大会関東学連選抜　10区5位

【奨励選手】
金田 希望（文2）　アイススケート部（フィギュア部門）　第34回関東学生フリースケーティング選手権大会ジュニアC男子1位
宮原 愛美（文1）　少林寺拳法部　第43回少林寺拳法関東学生大会女子二段の部4位
浦上 恒佑（済1）　水泳部　第79回関東学生選手権水泳競技大会男子3部200m・400m個人メドレー1位
新田 久里子（済2）　ソフトテニス部（女子）　東日本学生シングルス選手権大会ベスト8

2006年度の体育会活動は、例年にもまして優れたものがありました。硬式野球部、バレーボール部（女子）、バスケットボール部（男子）、空手道部は、日本一、あるいは準優勝という輝かしい成果を挙げ、青山学院大学の名を高らしめました。これらの部は、部員数の減少に悩みながらも見事な成績を残した点で立派というほかありません。他の各部にも大きな刺激となっています。
学業との両立をはかりつつ活躍する体育会学生への熱いご支援を、お願いいたします。
（2006年度体育会長 江泉 芳信 法務研究科教授）

Club & Circle Information

問い合わせ先　〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定（2007年6月～7月）

居合道部　学生居合道新人戦（6月）　東京都女子居合道大会（7月）
空手道部　関東学生春季リーグ戦（6月）　全日本学生空手道選手権大会・全国空手道選手権（7月）
弓道部　第37回学生弓道選手権（6月）
剣道部　全日本学生剣道選手権大会・全日本女子学生剣道選手権大会（7月）
拳法部　第20回日本拳法全国選抜選手権大会（6月）
硬式野球部　全日本大学野球選手権大会（6月）
自動車部　全関東学生ダートトライアル選手権大会（6月）
射撃部　東日本学生ライフル射撃選手権大会（6月）　全日本学生選抜ライフル射撃選手権大会（7月）
柔道部　全日本柔道優勝大会（6月）
準硬式野球部　東都大学準硬式野球春季リーグ戦（6月）
水泳部　夏季関東学生公認記録会（6月）
漕艇部　東日本大学選手権・全日本選手権（6月）　全日本軽量級選手権・関東新人ナックル選手権（7月）
ソフトテニス部（男子・女子）　全日本大学王座決定戦・東都大学選手権大会（6月）　東日本選手権大会・東日本一般選手権大会・東日本学生大学対抗・東日本学生シングルス（7月）
卓球部（男子・女子）　関東学生卓球選手権大会（7月）
チアリーディング部　関東選手権（7月）
軟式野球部　東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦（6月）
馬術部　関東学生馬術争闘戦・関東学生馬術競技大会（6月）
バスケットボール部（男子）　第47回関東学生バスケットボール新人戦（6月）
バドミントン部（男子・女子）　関東学生バドミントン選手権大会（6月）
バレーボール部（男子・女子）　東日本インカレ（7月）
フェンシング部　剛騎杯争奪フェンシング大会（6月）
ボクシング部　関東大学ボクシングトーナメント戦（6月）　第2回オープン戦（7月）
レスリング部　明治乳業杯全日本選抜選手権・東日本学生春季新人戦（6月）
ラクロス同好会　Vリーグ戦（女子）（6月）
二部バドミントン　関東学生バドミントン選手権大会（6月）
青山フォークウェイズ　春季定例コンサート（6月）
E.S.S.　大木杯スピーチコンテスト（6月）
競技ダンス部　第80回東部日本学生競技ダンス選手権大会・第29回東部日本学生競技ダンスジュニア選手権大会（6月）
箏・尺八研究会　関東学生三曲連盟定期演奏会（6月）

2007年度 地区父母懇談会のお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者の皆様との連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、父母懇談会を開催しています。今年度の地区父母懇談会開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。

より多くの保護者の皆様の参加をお待ちしております。

地　区	開催都市	開催日	会　場
北 海 道	旭 川 市	9月16日(日)	旭川グランドホテル
北 海 道	札 幌 市	9月15日(土)	ホテルオークラ札幌
青 森 県	八 戸 市	9月22日(土)	八戸第2ワシントンホテル
宮 城 県	仙 台 市	9月23日(日)	仙台国際ホテル
栃 木 県	宇都宮市	9月 9 日(日)	ホテル東日本宇都宮
群 馬 県	高 崎 市	7月21日(土)	高崎ビューホテル
富 山 県	富 山 市	9月 1 日(土)	富山全日空ホテル
山 梨 県	甲 府 市	7月29日(日)	ホテル談露館
静 岡 県	静 岡 市	8月 4 日(土)	静岡グランドホテル中島屋
愛 知 県	名古屋市	8月 5 日(日)	名古屋マリオットアソシアホテル
兵 庫 県	神 戸 市	8月18日(土)	ホテルオークラ神戸
鳥 取 県	米 子 市	8月25日(土)	米子全日空ホテル
岡 山 県	岡 山 市	8月19日(日)	ホテルグランヴィア岡山
徳 島 県	徳 島 市	8月26日(日)	ホテルクレメント徳島
香 川 県	高 松 市	9月 9 日(日)	全日空ホテルクレメント高松
山 口 県	周 南 市	7月 7 日(土)	ホテルサンルート徳山
福 岡 県	福 岡 市	7月 8 日(日)	ホテルオークラ福岡
熊 本 県	熊 本 市	7月14日(土)	熊本全日空ホテルニュースカイ
沖 縄 県	那 覇 市	7月28日(土)	ロワジールホテル那覇

開催時間●10:00～15:00（会場によって時間が異なる場合があります）
対象：首都圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県在住2・3年生の保護者の方は別途開催）以外の全道府県在住、全学年の保護者の方。いずれの会場にご出席いただいても結構です。

お問い合わせ先：庶務部庶務課　父母懇談会 担当
TEL. 03-3409-8568

AGUニューズ専用スタンド設置箇所案内図

前期チャペル・ウィーク

5月21日（月）～26日（土）は前期チャペル･ウィークです。チャペル･ウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をしていただく特別伝道週間です。

この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の要職にある方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重なご経験をもとに、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語ってくださいます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

宗教センター主催

青山学院フィリピン訪問プログラム

春休みを利用してのフィリピン訪問プログラムは、今年で4回目となります。今年は3月17日（土）～26日（月）9泊10日という日程で実施され、大学からは学生4名、教員1名が参加しました。プログラムの後半には、初等部から児童2名、教員2名が合流して総合学園ならではの縦割りプログラムが展開され、出発前のプレセッション事前学習を含めて年々内容的にも充実してきています。

フィリピンは、都市部では高度に近代化が進められていますが、農村部や都市部の裏側では貧困問題が深刻で、人口の約8割が貧困層とされています。しかも、それが社会構造的な悪循環を繰り返しており、貧困から抜け出せない人々が大勢います。本学では、これまでもいくつかの学生グループや個人がNPO法人Child Fund Japanを通じてフィリピンの子どもたちの支援を続けてきました。また昨年12月に献げられたクリスマス献金によって、新たに14名のフィリピンの高校生を支援し始めています。

この訪問プログラムは、青山学院が支援しているフィリピンの子どもたち、ならびにそのコミュニティを実際に訪ね歩いて彼らの生活状況やフィリピンの貧困の実態を知り、その上で私たちが、聖書の教える「隣人」としてどうあるべきかを考えようとするものです。今回も、限られた時間ではありましたが、多くのフィリピンの方々と出会い、交流する機会が与えられました。訪問した先々では、貧しい暮らしの中でも篤いもてなしを受け、寝食を共にしたり、両国の子どもたちの遊びを互いに楽しんだり、ディスカッションをしたりしながら、参加者一同かけがえのない時間を過ごすことができました。

知らずにいたならそれでよかったことでも、知った以上はそのままで済まされないことがあります。「人間とは何か」「豊かさとは何か」「幸せとは何か」を深く考えた10日間でした。もはや気にかけずにはいられない、人々のリアル･ライフがそこにはありました。何か自分にできることはないかと出かけた旅ではありましたが、グローバル時代の大きな課題をどっさりお土産として持ち帰ることになりました。

http://www.aoyamagakuin.jp/news/2007/shotoubu/0404/0404.html

澤邊 厚仁
理工学部電気電子工学科　教授

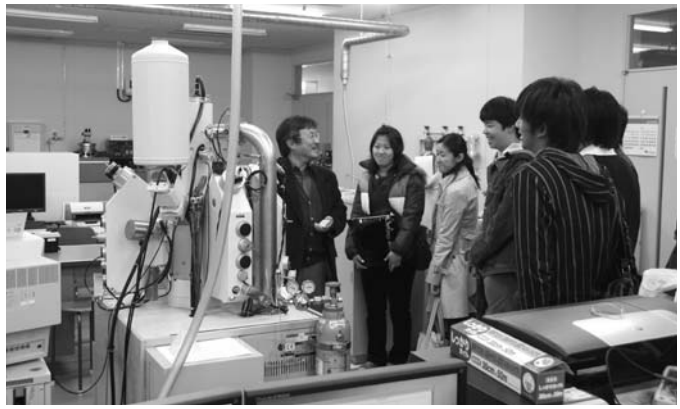
誌上公開講座　No.37

青山スタンダード

フレッシャーズセミナー

私が担当するフレッシャーズセミナーは、2003年4月に「青山スタンダード科目」がスタートした時から開講していますので、今年が5年目です。フレッシャーズセミナーは、新入学生に対して、大学における勉強の仕方、大学生活の楽しみ方などを伝えると共に、大学における学問に必要なスキルを導入するためのセミナーです。20名前後という小人数クラスで行うため、担当教員と学生は色々な事を本音で話し合えます。全国的に見ても非常にユニークな存在で、年々受講を希望する学生が増えています。今回紹介するフレッシャーズセミナーは、担当教員が理工学部電気電子工学科所属であるため、何か電気にかかわる内容で新入生の皆さんとディスカッションをしてみたいという気持ちで開講しました。

それではセミナーの内容を紹介しましょう。エネルギー問題を考えてみよう、という題目ですが、家庭内に存在するさまざまな電気製品がどのくらい電気エネルギーを消費しているかを、5名程度のチームを作り全員が簡単な装置を用いて測定します。一件単純な実験ですが、これをやることにより毎日生活に用いている電気製品が実際に消費する電気エネルギーを知ることが出来ます。すると、どの電気製品の使い方を注意すれば省エネに繋がるか、という事も理解しやすくなります。さらに測定したデータを使ってバーチャルモデルハウスを考え、例えば10%の電力消費量を削減するには具体的にどのような事をしたら良いかという省エネプランを作成してみます。その際に気をつける事は、今の生活水準を維持したまま省エネを行う、決して我慢をしない、という点です。すると、面白い事にテレビの政府公報などで流れている省エネの呼びかけの内容と見事に一致する事が分かります。



以上の活動は、自分自身の生活に密着した部分での実体験を通じたエネルギーに関する勉強ですが、それと平行して国家規模、世界規模でのエネルギー問題に関する調査も行います。これはインターネットを活用して、さまざまな機関により公開されている数多くのデータを集める事から入り、そのデータをどのように読んだら良いかという討論を行います。世界規模で観察すると、各国のエネルギーに対する考え方が大きく異なっている事が明らかになります。例えば、フランスは全ての発電量の7割以上を原子力発電に頼っている、カナダでは現在でも水力発電が主力である、など意外と知られていない事が次々に明らかになってきます。調査結果についての議論では、日本は50年後に今と同じ様なエネルギーの使い方が出来るだろうか、資源のない国がエネルギー原料を手に入れ続けるにはどうしたら良いのか、といった「重いテーマ」に足を踏み入れることもしばしば有ります。

以上の活動が終わりに近づくと、実際に測定したデータから明らかになった事、調査を行って明らかになった事を纏める作業を行い、グループ毎に発表準備を開始します。どの様なプレゼンテーションを行えば、やって来た事、明らかになった事を他人に確実に伝える事が出来るかを考え、時間をかけてプレゼンテーションシートを作ります。そしてセミナーの最後の時間を使って、各グループ20分ほどの発表を行い、その結果を全体で評価する事によりセミナーは終了します。非常にやる事が多いセミナーですが、積極的に参加すればするほど面白いセミナーだと勝手に思っております。前期木曜日の2限に相模原キャンパスL311輪講室で行っていますので、興味の有る在学生は覗きに来てください。見学は歓迎いたします。

2007年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加しています。開催日程は以下の通りです。

6/15（金）	函館	ベルクラシック函館
6/16（土）	札幌	アスティ45
9/1（土）	札幌	アスティ45
5/29（火）	山形	ホテルメトロポリタン山形
6/23（土）	仙台	仙台市情報・産業プラザ（AER）
7/4（水）	郡山	郡山市民文化センター
7/5（木）	福島	ホテル福島グリーンパレス
7/5（木）	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡
7/6（金）	青森	青森市文化会館
6/5（火）	水戸	水戸プラザホテル
6/6（水）	宇都宮	マロニエプラザ
6/8（金）	高崎	高崎サンパレス
5/26（土）	池袋	サンシャインシティワールドインポートマート
6/1（金）	川越	川越プリンスホテル
6/4（月）	大宮	大宮ソニックシティ
6/12（火）	渋谷	エクセルホテル東急
6/16（土）	横浜	横浜新都市ビル（横浜そごう）
7/13（金）	千葉	ペリエ
7/14（土）	九段	日本武道館
7/15（日）	横浜	パシフィコ横浜
5/29（火）	長野	ホテルメトロポリタン長野
5/31（木）	甲府	ベルクラシック甲府
7/11（水）	長岡	ホテルニューオータニ長岡
7/12（木）	新潟	ホテル新潟
9/12（水）	金沢	金沢全日空ホテル
6/9（土）	名古屋	デザインホール（ナディアパーク）
6/12（火）	静岡	ツインメッセ静岡
6/13（水）	浜松	アクトシティ浜松
7/21（土）	名古屋	名古屋国際会議場
10/6（土）	静岡	パルシェ
6/16（土）	大阪	梅田クリスタルホール
8/25（土）	大阪	大阪城ホール
5/31（木）	岡山	岡山コンベンションセンター
6/2（土）	広島	基町クレド
7/8（日）	広島	広島国際会議場
9/9（日）	高知	高知市文化プラザかるぽーと
9/10（月）	徳島	ホテルクレメント徳島
9/14（金）	高松	全日空ホテルクレメント高松
9/15（土）	松山	愛媛県県民文化会館
6/7（木）	鹿児島	鹿児島商工会議所ビル
6/8（金）	熊本	熊本市産業文化会館
6/9（土）	福岡	西鉄ホール
7/7（土）	福岡	エルガーラホール
7/12（木）	那覇	おきでんふれあいホール
7/13（金）	那覇	おきでんふれあいホール
9/13（木）	長崎	ベストウエスタンプレミアホテル長崎
9/26（水）	大分	トキハ会館
9/27（木）	宮崎	MRT micc
10/13（土）	熊本	熊本市産業文化会館

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。
※進学相談会の全日程は本学ホームページでご覧いただけます。

News Index 2007.3〜

07年3月

2007年3月に大学ウェブサイトで掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

- 2006年度 体育会表彰が行われました
- 2007年度 新年度初頭行事に関するお知らせ（抜粋）
- 青山学院大学寄附講座「中央三井信託銀行知財信託講座」の開講について
- 大野貴信さん（理・院博後3年）が電子情報通信学会学術奨励賞を受賞
- 内山友成さん（理・院博前2年）が、第14回超音波による非破壊評価シンポジウムにおける講演で新進賞を受賞
- 男子学生専用会館（ルクス・ムンディ長津田）を2007年4月に開館します
- 第3回キャンパスベンチャーグランプリ東京で白山達也さん（経営・4年）のグループが奨励賞を受賞
- 国際マネジメント研究科入学試験説明会（2/17）開催のお知らせ

2007年度 オープンキャンパス

■オープンキャンパス（受験生、高校1・2年生、保護者のご来場もお待ちしております）

相模原キャンパス（全学部対象）
●7月15日（日） 10:00〜16:00

青山キャンパス（全学部対象）
●7月22日（日） 10:00〜17:00＊
●9月16日（日） 11:00〜16:00＊

開催内容:「総合文化政策学部」「社会情報学部」（2008年4月設置予定）概要紹介／歓迎礼拝／大学紹介・入試概要紹介／全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介／学部学科紹介（「経済学部現代経済デザイン学科」（2008年4月開設予定）概要紹介を含む）／個別進学相談／留学説明会／大学紹介DVD上映／資料閲覧等を予定しています。（＊青山学院女子短期大学同日開催）

★オープンキャンパスボランティア募集中!!
20,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生（本学学生のみ）を募集しています。募集要項の配布、申し込み受付は、学生部学生課（青山キャンパス）およびスチューデントセンター・学生生活グループ（相模原キャンパス）にて、6月8日（金）まで行っています。ぜひご協力ください。

■社会人のための大学・大学院説明会
青山キャンパス●7月28日（土）14:00〜17:30（受付:13:45〜17:00）
内容:社会人・職業人対象の入学試験を実施する学部学科・研究科専攻の紹介、教員・在学生との懇談等を予定しています。

［※オープンキャンパスの開催内容等については、本学ホームページでご確認ください。
お問い合わせ先　広報入試センター広報課　TEL. 03-3409-8626］

大学紹介パンフレットのデジタルパンフレットをHP掲載

大学紹介パンフレットおよびビデオが下記アドレスにてご覧いただけます。（内容の一部抜粋）なお、2008年度版については6月以降にアップロード予定です。
http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html

能登半島地震で被害にあわれた方へのお見舞いとお知らせ

この度の「平成19年能登半島地震」で被災された方に、心よりお見舞い申し上げます。この地震により罹災し、今後の学業生活に支障をきたすような重大な被害を受けた新入生および在学生（大学院生も含む）への相談窓口を設けましたので、お知らせいたします。
〈相談窓口〉●青山キャンパス学生部学生課（1号館1階）TEL:03-3409-7835
●相模原キャンパス学生生活グループ（B棟1階スチューデントセンター内）TEL:042-759-6004

アドバイザー・グループ紹介 11

美・自然・人を愛する仲間たち 〈横山アド・グル〉

文学部　横山 徹 教授

横山アド・グルは「美を愛する・自然を愛する・人を愛する」を理念に活動しています。活動内容は、陶芸の制作、野外キャンプや各種親睦会が中心で、青山祭には毎年手作り品のお店（陶器や七宝焼き）を出店。過去に出店部門で2度賞を受賞しました。 アドグルデーは毎年、宿泊旅行（主にキャンプ）、3月は卒業生を送り出す旅行、また食事会は二部の学生向けに毎週水曜日に授業が終わった後、近くの中華料理店で「千円会」（一人約千円の予算で飲み食いできる）を10年以上続けています。新年には我が家で新年会を開き、卒業生を含む大勢のメンバーが集まりました。卒業生との交流は盛んで、各種イベントはOB・OGも参加することが多く、上下関係がないのが特徴です。

昨年アドバイザー・グループの15周年記念を青山キャンパスの近くのレストランで行いました。その案内状の発送にあたっては、不明者や確認できない人などに1軒ずつ電話をかけるという作業を多くのOB・OGが行ってくれました。おかげで15周年も会場が満員になるほどの盛況で、さらに20周年に向けての一つの目標ができたことを実感した1日でした。

2006年11月26日
横山アドバイザー・グループ15周年記念パーティー

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニューズ」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
事務取扱窓口　青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

広報入試センター広報課●2007年5月20日発行●